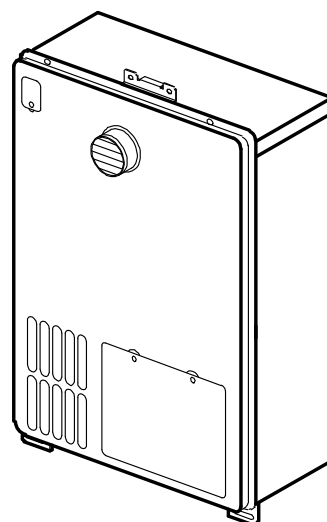


給湯暖房用熱源機

機 種	品 名	型式名
ふろ全自動タイプ	XT4214ARSAW3C	GH-H2400Z (A) WT
	XT4214ARS2AW3C	GH-H2400Z (A) YT
	XT4214ARS4AW3C	GH-H2400Z (A) TT
	XT4214ARS9AW3C	GH-H2400Z (A) UT
ふろ自動タイプ	XT4214ARSSW3C	GH-H2400Z (A) WT
	XT4214ARS2SW3C	GH-H2400Z (A) YT
	XT4214ARS4SW3C	GH-H2400Z (A) TT
	XT4214ARS9SW3C	GH-H2400Z (A) UT

工事される方へのお願い

- この機器を正しく安全に使用していただくために、この「設置工事説明書」をよくお読みになって指定された正しい工事を行ってください。本書の設置条件を外れた設置が原因で生じた故障などは、保証期間内であっても保証の対象になりませんのでご注意ください。
- 「ガス機器の設置基準及び実務指針」（一般財団法人日本ガス機器検査協会刊）に沿って工事してください。
- 工事終了後、取扱説明書（保証書付）の保証書に必要事項を記入し、必ずお客様に渡してください。



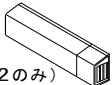
も く じ

1. 付属部品	2	7. 暖房配管工事	17
2. 別売部品	2	8. ガス配管工事	18
3. 安全上のご注意	3	9. 電気配線工事	19
4. 機器の設置工事	3	10. 暖房信号線接続工事	21
(1) 設置基準	3	11. 設置工事後の確認	23
(2) 設置前のご注意	8	12. 試運転	24
(3) 設置場所のご注意	9	13. 試運転後の水抜き	30
(4) 設置工事	10	14. お客様への説明	31
5. 給水・給湯・ドレン配管工事	13	15. 外形寸法図	31
6. ふろ配管工事	15		

1. 付属部品 2. 別売部品	機種：共通
--------------------	-------

1. 付属部品

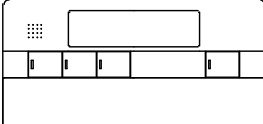
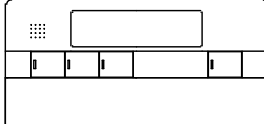
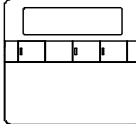
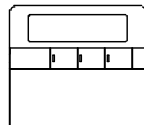
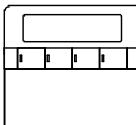
梱包内には、取扱説明書・設置工事説明書（本紙）以外に下記の付属部品が入っていますので、取り付けの前に確認してください。

部 品 名	形 状	個 数	部 品 名	形 状	個 数	部 品 名	形 状	個 数
丸 木 ネ ジ φ 4 . 8 × 3 8		5	平 ワ ッ シ ャ ー (小)		4	排 気 ア ダ プ タ ー 一 式	 (ARS2のみ)	1
＋ ナ ベ 小 ネ ジ M 5 × 1 6		4	高 温 端 末 接 続 リ ー ド 線 (2 心)		1	不 凍 液 注 入 識 別 ラ ベ ル		1
プ ラ グ S X 6 × 3 0		5	低 温 端 末 接 続 リ ー ド 線 (3 心)		3			
平 ワ ッ シ ャ ー (大)		4	E - c o n 接 続 リ ー ド 線 (2 心)		1			

2. 別売部品

別売部品は、機器や設置タイプに応じて、別途お買い求めください。また別売部品は、東京ガス指定品とあるものはこれに従ってください。東京ガス指定品は、仕様変更される場合があるので注意してください。

■別売部品（リモコン）

	標準リモコン	高機能リモコン	増設リモコン
浴室リモコン	 XBR-A14A-CV	 XBR-A14A-BCV XBR-A14A-BCGIV	 XSR-A11A-V XSR-A11B-CIV
台所リモコン	 XKR-A14A-CE9SV XKR-A14A-CDE9SV XKR-A14A-BCE9SV	 XKRA14A-BCDE2SV XKR14ABCE2G1SV	増設リモコンの組み合わせ XSR-A11A-V：標準リモコン 高機能リモコン (XBR-A14A-BCV、XKRA14A-BCDE2SV) XSR-A11B-CIV：高機能リモコン (XBR-A14A-BCGIV、XKR14ABCE2G1SV)

注）リモコンコードは東京ガス指定品を使用してください。

■別売部品 故障の原因となりますので、指定品以外の物は使用しないでください。

部 品 名	品 名	部 品 名	品 名
据置台 (450mm)、(650mm)	SD-4534、6534	低振動用壁取付金具	PB-7
配管カバー (450mm)、(650mm)	HC-4534、6534	防振壁固定金具	WK-9000
扉内収納ボックス	SB-8105	防振架台 (450mm)、(650mm)	BK-4500、6500
上方排気カバー	HU-1902	X デンリョクソクテイ-2P	EM-02
側方排気カバー	HY-2902	排気アダプター上方ストレート型	HA-100S
扉内側方排気カバー (PS 扉内設置用)	HT-4803	排気アダプター上方L型	HA-100L
排気流速UPアダプター (15° 斜方タイプ)	HA-1080V-15	ベンドトップ	TZ-FBW100NKP (D)
排気流速UPアダプター (30° 斜方タイプ)	HA-1080V-30	ベンドトップ (流速UP仕様)	後付 FBW100NKP (D) セット
		循環アダプター	TZ-FBW100NKP (D) ストレート
			後付 FBW100NKP (D) ストレートセット
			各種

循環アダプターおよびその他の別売部品については施工現場にあわせて東京ガスの指定品の中からお選びください。

3. 安全上のご注意	機種：共通
4. 機器の設置工事 (1)設置基準	

3. 安全上のご注意

■この設置工事説明書の表示について

- ・この設置工事説明書では、機器を正しくお使いいただき万一の事故を未然に防ぐために、以下のような表示で注意を呼びかけています。

表示について（表示の意味は次のようになっています。）



危険

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う危険、または火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。



警告

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、作業を誤った場合に作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

●絵表示については次のような意味があります。



一般的な禁止



アースを接続せよ



電源プラグを抜け

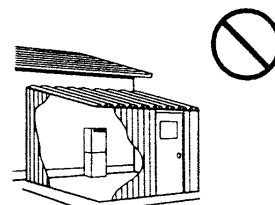


必ず行う



危険

- ・この機器は、屋外用です。屋内や浴室には絶対に設置しないでください。
また、波板等によって簡易な囲いもしないでください。
不完全燃焼や一酸化炭素中毒の原因となり、危険です。
- ・排気筒には、防火ダンパーなどを絶対に設置しないでください。



警告

- ・機器の設置・移動および付帯工事には専門の資格・技術が必要です。
工事は必ずお買い上げの販売店または最寄りの東京ガスに依頼し、有資格者による正しい工事が行われるようにしてください。
- ・工事は、「4. 機器の設置工事」の(1)設置基準にある、法・基準・指針・条例などに従って行ってください。

4. 機器の設置工事

(1) 設置基準



警告

機器を正しく安全にご使用いただくため、この工事説明書をよく読み、次の法、基準、指針、条例などに従って設置すること。

- ・建築基準法・電気設備に関する技術基準・ガス事業法・液化石油ガス法・水道法・下水道法・特定ガス消費機器の設置工事の監督に関する法律・当該地区の市・町・村火災予防条例・一般財団法人日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」

防火上の措置

⚠ 注意

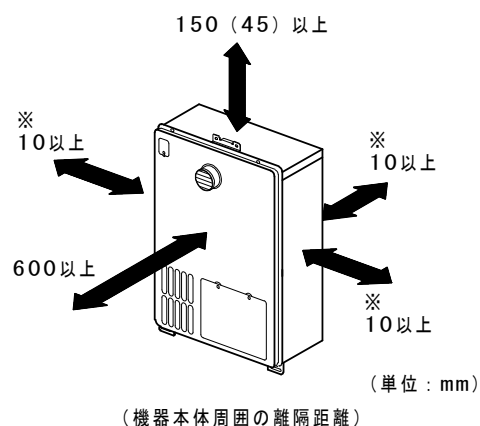
・機器の周囲の可燃物（可燃材料・難燃材料または準不燃材料による仕上げをした建物の部分も含む）とは次の離隔距離をとること。この他にも点検、修理のためのスペースも確保すること。

・（ ）は下地が不燃材以外の材料で造り、不燃材料で有効に仕上げた場合と防熱板を取り付けた場合の、建築物との距離

※10 以上の寸法は防火性能評定品（機器にラベルで寸法表示あり）のみ。

① 機器本体周囲の離隔距離

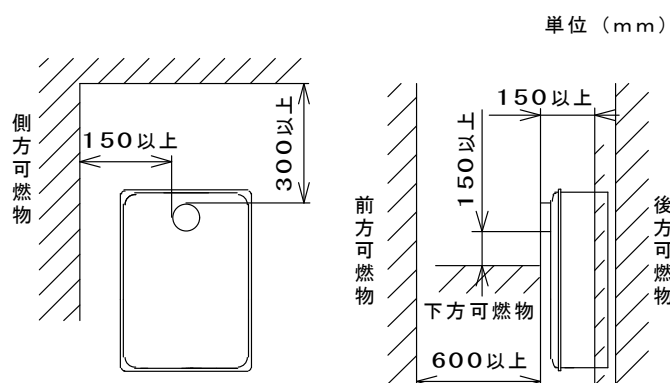
・銘板に前方離隔距離 150mm 以上と記載されている機器がありますがメンテナンスを考慮し 600mm 以上確保してください。



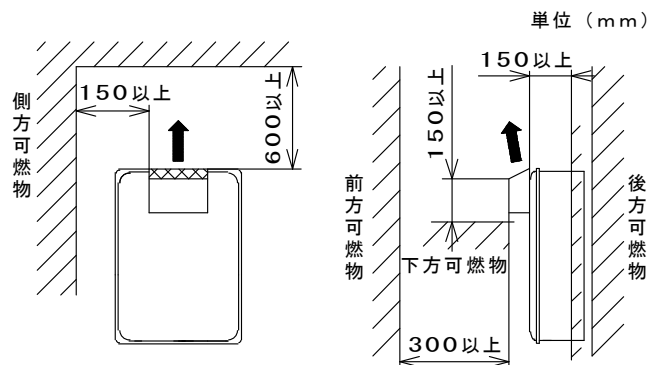
② 排気吹き出し口周囲の離隔距離

（排気吹き出し口と不燃材料以外の材料との離隔距離）

●ARS（標準形）、ARS4（PS 扉内設置形）の場合

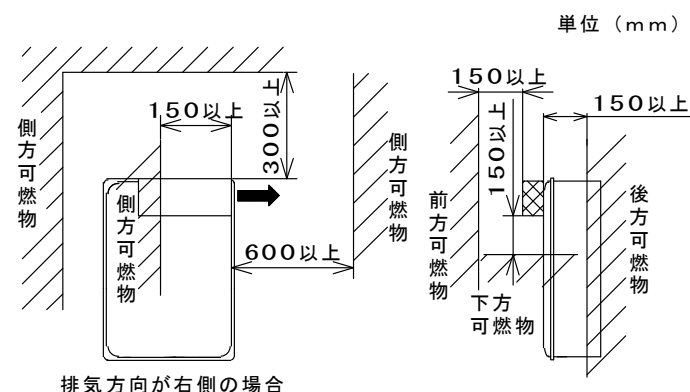


●排気カバー（上方排気）取り付けの場合



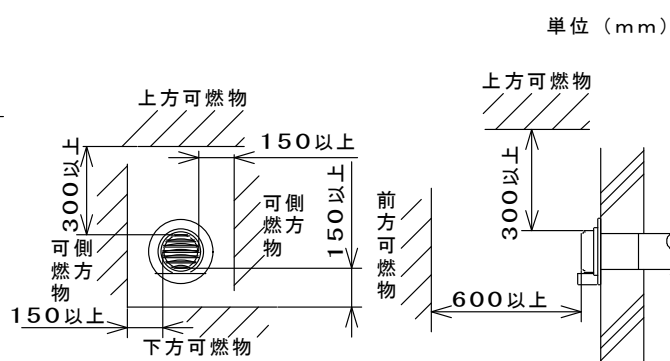
・前方離隔距離 300mm 以上ですが、メンテナンスを考慮し 600mm 以上確保してください。

●ARS2（アルコーブ設置形）、排気カバー（側方排気）取り付けの場合



排気方向が右側の場合

●ARS9（上方排気延長形）の場合



・前方離隔距離 150mm 以上ですが、メンテナンスを考慮し 600mm 以上確保してください。

③ 排気筒と「不燃材料以外の材料による仕上げをした建築物等の部分」との離隔距離

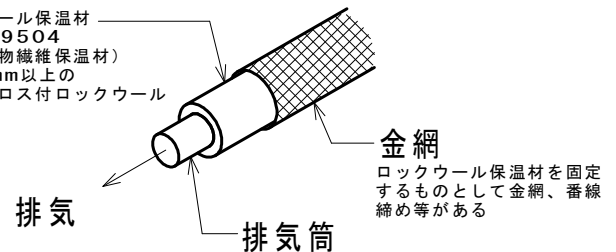
(単位：mm)

	隠ぺい空間	開放空間	
	断熱施工ありの場合	断熱施工ありの場合	断熱施工なしの場合
空間部			
壁貫通部	20 mm 以上の金属以外の不燃材で巻いた場合	20 mm 以上の金属以外の不燃材で巻いた場合	周囲排気筒径の1/2以上の空間 通気性のよい空間 鉄板製めがね板 鉄板等 (片側のみ) 鉄板製 ガラリ等 (両面)

断熱施工例

- ・可燃物までの距離は、機器の本体と排気口からの両方を満足するように設置すること。
- ・排気筒が隠ぺい部に設置される場合は、壁などに接しないようにすること。
- ・上記の離隔距離を確保しないと火災の原因となります。
(離隔距離の基準は、各自治体により異なりますので注意すること)

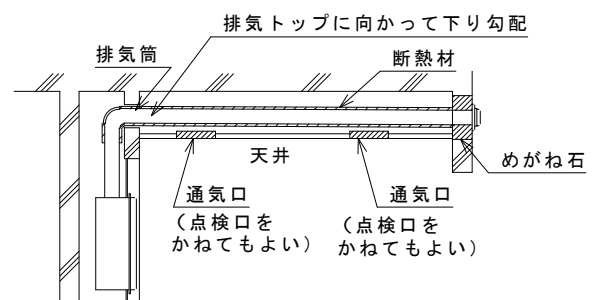
ロックウール保温材
JIS A9504
(人造鉱物繊維保温材)
厚さ20mm以上の
アルミクロス付ロックウール



! 注意

隠ぺい空間に排気筒を設置する場合の通気口(点検口)・離隔などの注意

- ・隠ぺい部に排気筒を設置する場合は、排気筒の全長が目視できるような点検口を設けてください。
- ・隠ぺい部の換気が十分でない場合は、2箇所以上の通気口を設けてください。(点検口をかねてもよい。)
- ・隠ぺい部で間仕切壁を貫通する場合は、その壁の近くに必ず点検口を設けてください。
- ・詳細については各自治体によって異なる場合がありますので確認すること。



給排気設備

! 注意

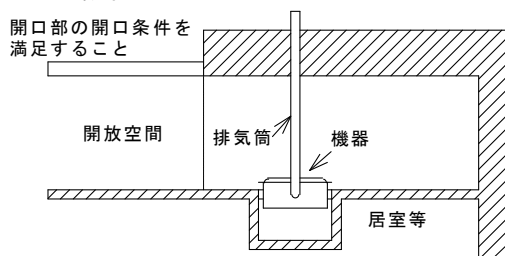
●ARS（標準形）、ARS2（アルコーブ設置形）、ARS4（PS 扉内設置形）の場合

- ・給気・排気が十分できる場所（開放スペース）に設置すること。
壁等に囲まれた場所への設置は不完全燃焼の原因となります。
- ・「3. 安全上のご注意」**⚠危険** および工事の詳細は「4. 機器の設置工事」(4) 設置工事を参照してください。

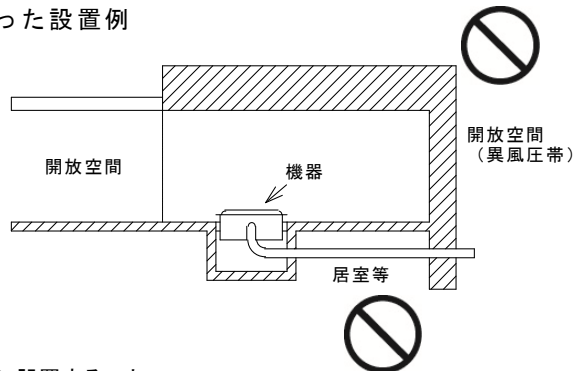
●ARS9（上方排気延長形）の場合

- ・排気延長した排気トップの位置と、機器の給気位置とは、同一風圧帯になるように設置すること。

正しい設置例



誤った設置例



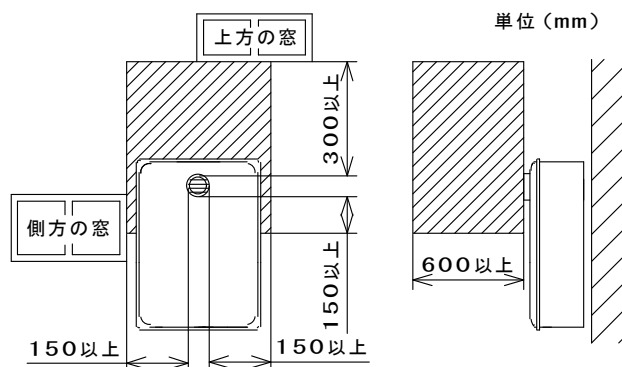
- ・排気トップの工事説明書に従って施工すること。
- ・排気トップ位置は周囲に障害物がなく、排気ガスが停滞することのない場所に設置すること。
また排気トップの先端に、危険物を置かないこと。
- ・排気トップは、取り付け及び保守するのに支障のない場所に設置すること。
- ・排気トップの先端から、水蒸気（煙状のもの）や水滴が出ることがあるため、排気トップの位置は、水蒸気の見えにくい場所や水滴落下による床ぬれ・飛散による支障のない場所を選んで設置すること。
- ・不完全燃焼の原因となるため、排気トップは積雪・落雪や風の吹きだまり場所に設置しないこと。
- ・排気筒には、防火ダンパーなどを絶対に設置しないこと。防火ダンパーが作動した場合、不完全燃焼となり大変危険です。
- ・排気筒は屋内に設置しないこと。（強制排気の屋外用ガス機器を PS（パイプシャフト）又はチャンバーに設置し、開放空間まで専用の排気筒を用いて導く場合、屋内を通さないこと）
- ・排気筒及び排気トップは、東京ガス指定品（一般財団法人日本ガス機器検査協会（JIA）の認証品）を使用すること。
- ・排気筒は容易に外れないように強固に接続し、燃焼排ガス漏れを防ぐ処置をすること。
- ・排気筒は東京ガス指定品（一般財団法人日本ガス機器検査協会（JIA）認証品）の支持金具を用いて通常 1.5～2.0m 間隔で固定すること。
- ・排気トップは、必ず屋外へ通ずるように設置すること。
- ・排気筒を延長する場合は、防火区域の貫通をさけて経路を決定する。
- ・排気筒の口径は、機器の接続口径より縮小しないこと。
- ・機器からの立ち上がり排気筒は、できるだけ短くすること。（立ち上がり 2m 以下）
- ・排気筒の延長は、排気トップに向かって水平または 1/50 程度の下がり勾配に施工すること。
- ・排気筒の横引き高さを途中で変える必要がある場合は、まず機器より排気筒を立ち上げてから下り配管にすること。途中で立ち上がるような延長はしないこと。
- ・取り替え現場などでも、原則として排気筒および排気トップは同時に取り替えること。再使用する場合は（部品の材質が SUS304 または同等以上の材質の場合）、排気筒の穴あき・減肉・亀裂・閉塞・接続部のズレなどの異常のないことを確認のうえ使用すること。
- ・排気筒の径と延長限界および排気延長による風量切替は「4. 機器の設置工事」(4) 設置工事の **排気筒工事** を参照してください。
- ・機器を設置する場所から排気トップまでの所定の延長距離内にあることを確認すること。排気筒延長限界を越えた場合は、異常着火などが発生し危険です。
- ・排気トップは排気が室内に入らないように開口部のない場所に設置すること。もし、周囲に開口部がある場合は、**■排気吹き出し口と建物開口部との離隔距離**の項目に示す設置をすること。

⚠ 注意

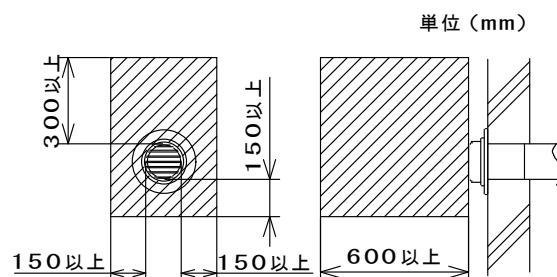
■排気吹き出し口と建物開口部との離隔距離

- ・排気が室内に入らないよう開口部のない場所に設置すること。
- ・周囲に開口部がある場合は下図の斜線部に壁面に投影した範囲内に開口部がないこと。
ただし、排気吹き出し口から 600mm 以上離れた部分を除く。

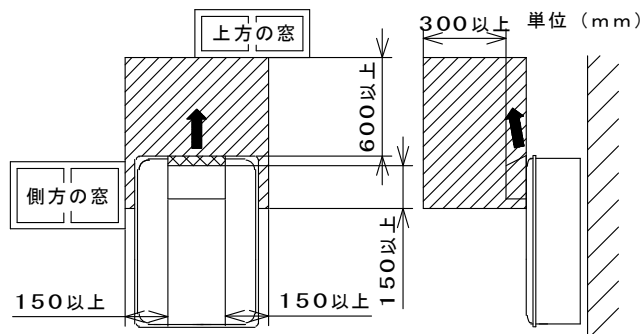
●ARS (標準形)、ARS4 (PS 扉内設置形) の場合



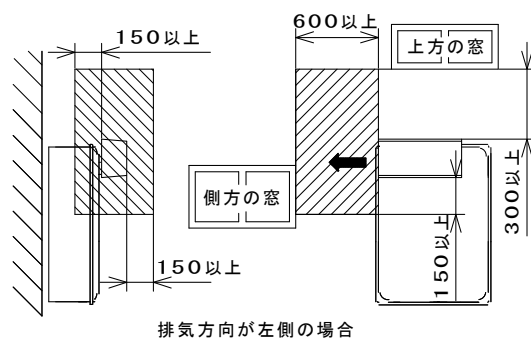
●ARS9 (上方排気延長形) の場合



●排気カバー (上方排気) 取り付けの場合



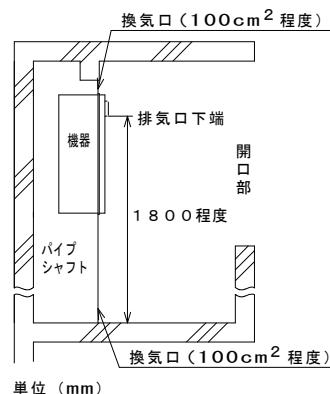
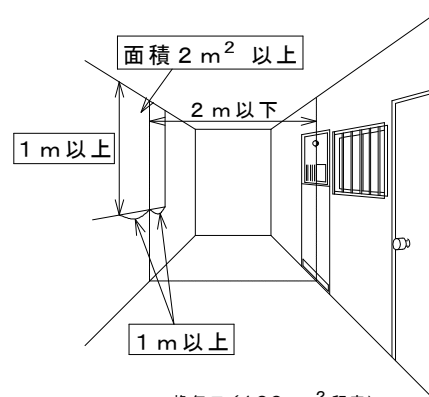
●ARS2 (アルコーブ設置形)、 排気カバー (側方排気) 取り付けの場合



排気方向が左側の場合

●PS (パイプシャフト) 設置の場合

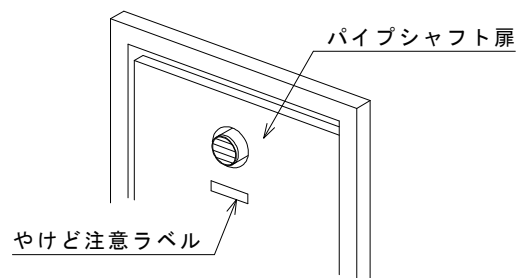
- ・開放廊下の開口部が以下の条件を満たす場所に設置してください。
詳しくは一般財団法人日本ガス機器検査協会発行の「ガス機器の設置基準及び実務指針」をご覧ください。
- (1) 開放廊下の開口部は、原則としてガス機器の排気吹き出し方向を中心に両側に 1m 以上、高さ 1m 以上、かつ面積 2m^2 以上必要とします。なお、ガス機器の排気口から開放空間までの距離は 2m 以下とします。
- (2) 上記 (1) の条件を満たす設置ができない場合は排気延長とし、燃焼排ガスが開放空間に直接排出されるように設置してください。
- (3) 機器取り替え時等に関して、(1) 及び (2) の条件を満たすことが難しい場合には、結露・腐食等に考慮し、設置者と関係者が十分協議を行った上で設置してください。
- ・パイプシャフトを構成する床・壁は次の構造としてください。
床…各階で耐火構造等の水平区画を行うこと。
壁…居住空間とは耐火構造等の壁で区画を行うこと。
- ・パイプシャフト内の換気のため、扉の上下に各々 100cm^2 程度の換気口を設けること。また、パイプシャフトへの設置は自治体によって独自の規定をしている場合があるため確認が必要です。
- ・排気口の吹き出し口は、排気口下端が床面から 1800mm 程度にすること。
- ・PS 金枠の様式や大きさなどは、各自治体・各消防署・水道局等の規制もありますので適用される規制に従ってください。
- ・機器本体の気密性を保持するため、電線管は、耐火パテ等でコーキングしてください。



単位 (mm)

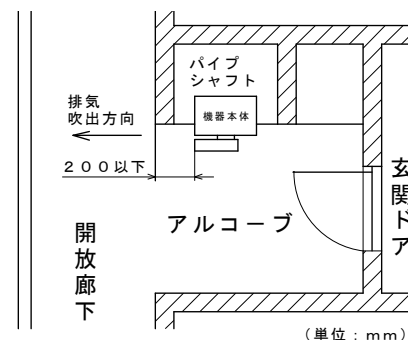
●ARS4 (PS 扉内設置形) の場合

- 機器のフロントカバーに貼り付けてある「やけど注意ラベル」をパイプシャフト扉の排気筒近くにほこりや水分をよく拭き取り貼り付けてください。



●ARS2 (アルコーブ設置形) の場合

- 燃焼排ガスは直接開放廊下に対して直角に吹き出すようにしてください。
- 機器を設置する際は機器本体や排気アダプターが、家具や機材等の持ち込みする際の支障とならないようにアルコーブの幅員に十分注意してください。
- 有風時、燃焼排ガスが玄関ドアから住宅内へ進入しないようドアの開閉方向に注意してください。



(2) 設置前のご注意

⚠ 注意

用途外の注意

- 給湯・シャワー、ふろ、暖房（乾燥）以外には使用しないでください。機器の故障の原因となります。
- 暖房専用としては設置しないでください。機器の故障の原因となります。
- 家庭用機器ですので、業務用など長時間使用すると機器の寿命が極端に短くなります。
- 車両・船舶への設置はしないでください。機器の故障の原因となるだけでなく、思わぬ事故を招く恐れがあります。
- 太陽熱温水器との接続はしないでください。
太陽熱温水器の水温が高くなった場合に、お湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。
やけどの危険性が高く、機器の故障の原因となります。

使用ガスの確認

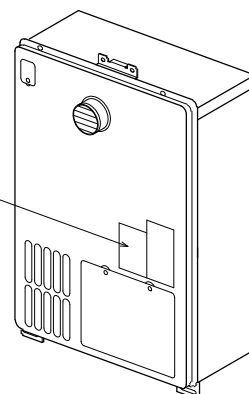
- 銘板（ラベル）に表示してあるガスの種類（ガスグループ）で使用してください。
表示以外のガスを使用すると不完全燃焼や異常点火などの原因となります。

使用電源の確認

- 電源はAC100V、50/60Hz共用です。
表示以外の電源で使用する、火災・感電の原因となります。
- 必ず接地工事（アース）を行ってください。
(9. 電気配線工事参照)
接地工事が不完全な場合は、感電事故の原因となります。

XT4214ARSAW3C			
凍結予防ヒーター		〇〇〇〇	
GH-H2400Z (A) WT			
屋外式	都市ガス用		
	13A	12A	
最大	〇〇〇〇	〇〇〇〇	
給湯	〇〇〇〇	〇〇〇〇	
暖房	〇〇〇〇	〇〇〇〇	
暖房熱出力	〇〇〇〇	〇〇〇〇	
AC100V 50/60Hz		〇〇〇/〇〇〇〇	
		パーパス株式会社	
認証登録番号		〇〇〇〇〇〇	

注) この部分を必ずご確認ください。



給水配管の確認

- 温泉水や地下水および井戸水は、水質によっては機器を腐食させる恐れがあるので、機器に接続しないでください。
- この機器を快適に使用するためには、給水圧が0.1~0.75MPa (1.0~7.5 kg f/cm²) が必要です。設置場所の給水圧を確認してください。
- また、水圧が0.75MPa (7.5 kg f/cm²) 以上あるときは、過圧逃がし弁から水が出たり、ウォーターハンマー現象が起こることがありますので、機器の手前に減圧弁を取り付けてください。

(3) 設置場所のご注意

- ・設置場所を決める時は、下記の注意事項を確認し、お客様とよく相談してください。
- ・建物の設計段階から、設置方法や配管・配線工事方法等に関する打ち合わせを十分してください。
- ・設置場所によっては、近隣の家と騒音や排気ガスの熱風によるトラブルなどが生じることがあるので、十分配慮して設置してください。
- ・公共の通路などに近接して設置する場合は、やけどや落下物・投棄物などによる障害およびいたずら操作を防止するよう配慮して設置してください。

⚠ 注意**設置場所周囲の注意**

- ・この機器は標高 1000m を超える場所に設置しないでください。
- ・ガスメーター・ガス配管や電気メーターなどの点検に支障のない場所に設置してください。
- ・電気配線はガスメーターやガス配管に接触させないでください。漏電した場合、感電や火災の原因となります。
- ・ベランダ設置で、ベランダなどが避難通路となる場合は、600mm 以上の通路を確保してください。
- ・据置設置の場合、排水状況を確認し、機器が冠水するような状態に設置しないでください。また、機器を設置した地面・床面は水が溜まらないよう排水処理をしてください。漏電や異常燃焼、機器の故障の原因となります。
- ・機器の排気が直接建物の外壁や窓・ガラス（網入りガラス含む）・網戸・アルミサッシなどにあたらないように設置してください。外壁やアルミサッシの変色、ガラスが割れるなどの原因となります。また、周囲の動植物への影響のないよう、設置場所を変えるか、排気方向変更の処置をしてください。

設置場所雰囲気への注意

- ・腐食性ガス（アンモニア・塩素・硫黄・エチレン化合物・酸類など）の発生する場所や、引火性危険物（ガソリン・ベンジン・接着剤など）取扱場所および特殊薬品（ヘアースプレーなど）を使用する場所に設置しないでください。火災や機器の故障、異常燃焼の原因となります。
- ・砂や綿などのホコリのたまりやすい場所には設置しないでください。不完全燃焼の原因となります。
- ・換気扇・レンジフード・エアコンなどからの風が機器の給・排気に影響を与える場所に設置しないでください。不完全燃焼の原因となります。
- ・機器のリモコンはガスコンロなどの燃焼機器の上に設置しないでください。機器やリモコンの故障の原因となります。

保守・点検スペース

- ・機器の点検・修理ができるよう十分なスペースを確保してください。特に機器前方は、600mm 以上の空間を設けてください。
- ・高所の外壁に機器を設置する場合は、機器正面でメンテナンス作業ができ、手すりなどの落下防止の処置のある場所に設置してください。

火災予防上の注意

- ・機器を設置する場所の周囲の壁・天井などから、防火上有効な間隔を確保できる場所に設置してください。
 - ・可燃物までの距離は、機器の本体と排気口からの両方を満足するように設置してください。
 - ・排気筒が隠れ部に設置される場合は、壁などに接しないようにしてください。
 - ・棚の下など、落下物の危険のある場所や、洗濯の物干場など、燃えやすい物のある場所には設置しないでください。火災の原因となります。
 - ・機器・排気筒・排気トップ等の離隔距離を確保しないと火災の原因となります。詳細は「4. 機器の設置工事」の(1) 設置基準を参照してください。
- ※ 離隔距離の基準は、各自治体により異なる場合がありますので注意してください。

排気の注意

- ・「4. 機器に設置工事」の(1) 設置基準 **給排気設備** と、工事の詳細は(4) 設置工事を参照してください。

(4) 設置工事

注意

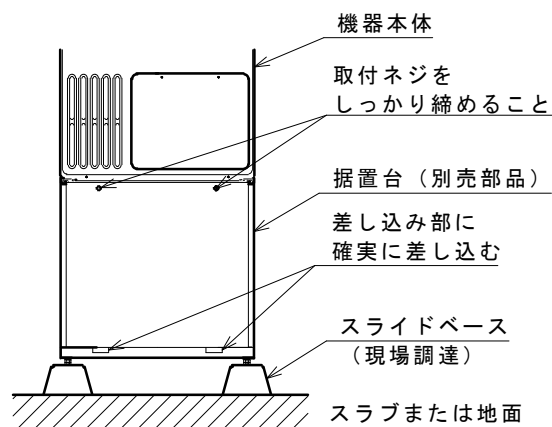
設置場所の工事

- ・この機器の重量は、約 42 kg（機器満水時）あります。機器を設置する地面・床面は十分な補強工事が必要です。十分な補強工事がされないで機器の転倒および機器運転時の振動による影響が発生する恐れがあります。
- ・機器を設置する場合、落下させたり衝撃を加えたりしないでください。
- ・壁固定金具の取り付けや配管用の穴あけ作業の際は、壁内の電気配線やガス・水道配管などに注意してください。
- ・排気筒の貫通部の穴あけは、「4. 機器の設置工事」の(1) 設置基準および(4) 設置工事を参照してください。
- ・電気設備に関する技術基準により、メタルラス張り・ワイヤラス張り等の壁に、機器の転倒防止用の固定をする場合は、絶縁部品を取り付けて機器とメタルラスなどとは電氣的に接続しないようにしてください。漏電が発生した場合、感電や火災の原因となります。
- ・機器を取り付けたビス類から建物内に水が入らないように必要に応じて防水処置をしてください。
- ・器具及び配管の破損で水漏れが発生した場合でも、室内への水の侵入を防止するために、電気・ガス・水等の各配管が屋外から屋内に貫通する部分は、必ず防水処置をしてください。

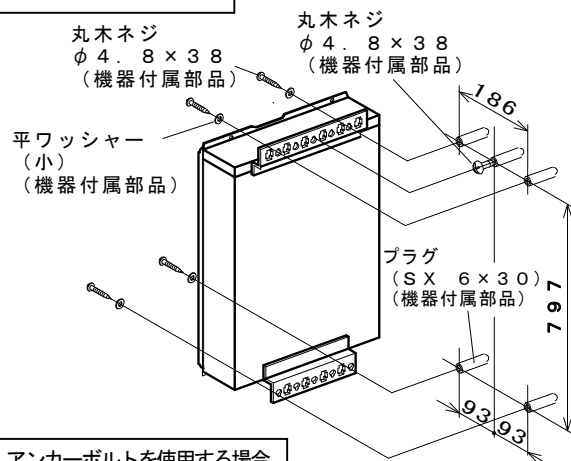
※平成 25 年 4 月施行の建築基準法改定に準拠するために、木ネジとプラグは機器に付属のものを必ず使用し、壁面に固定してください。

据置設置

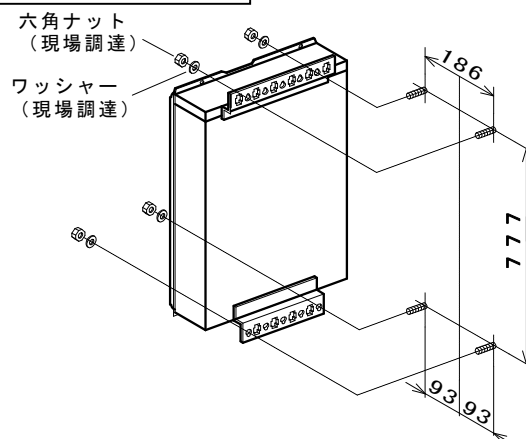
- ・据置設置の場合は、水平な場所に設置して堅固に固定してください。
- ・ガス・給水・給湯・ふろ・暖房の各配管の接続位置は「15. 外形寸法図」を参照してください。
- ・ベースは、指定のコンクリートスライドベース（現場調達）を使用してください。
- ・据置台および機器設置の施工手順は据置台工事説明書を参照し施工を行ってください。
- ・「2. 別売部品」で据置台の品番を確認してください。
- ・メタルラス張り・ワイヤラス張り等の壁に、機器の転倒防止用の固定をする場合は、絶縁部品を取り付けて機器とメタルラスなどとは電氣的に接続しないようにしてください。
- ・機器設置後、据置台のフロントカバーを下部差し込み部に差し込み、取付ネジをしっかりと締め込んでください。



丸木ネジを使用する場合



アンカーボルトを使用する場合



壁掛設置

- ・壁掛設置の場合は、垂直な壁に設置して、堅固に固定してください。
- ・機器排気口下端の位置が、地面・床面から 1800mm 程度の高さになるように、機器を設置してください。
- ・ガス・給水・給湯・ふろ・暖房の各配管の接続位置は「15. 外形寸法図」を参照してください。

■プラグ（SX 6×30）と丸木ネジで取り付ける場合

1. 壁面にプラグ（SX 6×30）を取り付ける。（下穴径φ6、深さ 40 mm）
2. 上部壁掛金具中央の位置に丸木ネジ（φ4.8×38）を壁にねじ込んでください。（10 mm程度残します。）
3. それに機器本体の壁掛金具中央の穴を引っ掛けてください。
4. 壁掛金具の上 2 箇所、下 2 箇所を平ワッシャー（小）を入れた丸木ネジ（φ4.8×38）で固定してください。
5. 2 で取り付けた丸木ネジを締め付けてください。

- ・プラグ（SX 6×30）、丸木ネジは「1. 付属部品」を参照してください。

■アンカーボルトを使用する場合

1. 右図を参考にアンカーボルト（現場調達）を取り付けてください。
2. 機器壁掛金具にアンカーボルトを引っ掛け、六角ナットで固定してください。

※ALC壁に取り付けの際は東京ガスにお問い合わせください。

配管カバーの取り付け

- ・壁掛設置の場合は、必要に応じて配管カバーを取り付けてください。
- ・「2. 別売部品」で配管カバーの品番を確認してください。
- ・配管カバーおよび機器設置の施工手順は配管カバー工事説明書を参考し施工を行ってください。
- ・機器設置後、配管カバーのフロントカバーを下部差し込み部に差し込み、取付ネジをしっかりと締め、がたつきのないことを確認してください。

排気カバー

- ・排気方向を変更する場合は、用途に応じた排気カバーを取り付けてください。
- ・「2. 別売部品」で排気カバーの品番を確認してください。

屋外PS（パイプシャフト）設置

- ・集合住宅のPS（パイプシャフト）に設置する場合は、PS 金枠が必要です。
PS 金枠の仕様や設置方法および配管方法などを確認してください。
 - ・PS 内の配管・配線方法は「ガス機器の設置基準及び実務指針」などの規制に従って施工してください。
- ※PS（パイプシャフト）金枠に設置する際、上部壁掛金具が邪魔なときは、機器より外してください。
外したビスは元どおりに取り付けてください

■PS 標準設置の場合

ARS（標準形）

1. 金枠上部の長穴に機器本体取付金具の折り曲げ部を引っ掛けます。
2. 機器本体取付金具と金枠、機器下部左右の穴と金枠を付属の平ワッシャー（小）と小ネジ M5×16 で固定してください。（4箇所）

ARS2（アルコーブ設置形）

1. 上記 1. 2. を参照し機器を PS 金枠に取り付けてください。
2. 機器付属の排気アダプター（一式）を取り付けてください。
排気アダプター取り付け方法は排気アダプターに付属の工事説明書を参照してください。

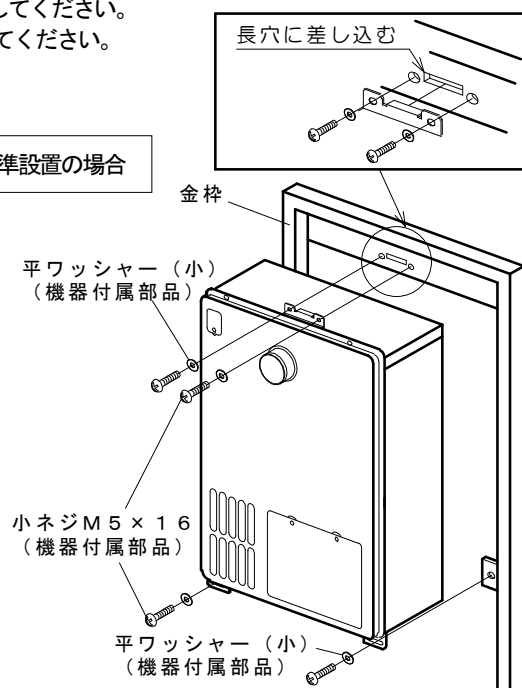
■PS 扉内設置の場合

ARS4（PS 扉内設置形）、ARS9（上方排気延長形）

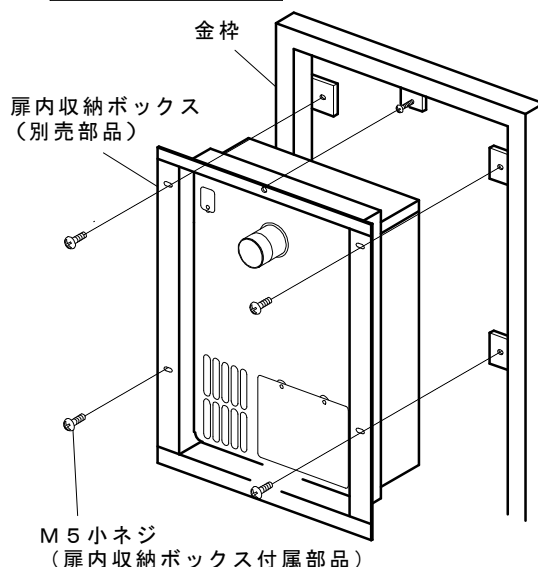
- ・機器を設置するには、別売部品の扉内収納ボックス（SB-8105）が必要です。
- ・PS 金枠と扉内収納ボックス、および扉内収納ボックスと機器本体は、気密性を保つように設置してください。
- ・PS 扉内機器設置時に PS 扉と機器の気密を保つパッキンの位置を確認してください。
- ・気密に不備のある場合は、パッキン取り付けや当り板取り付け等の対策を行い気密を確保してください。
- ・扉内収納ボックスの取り付け方法は扉内収納ボックスの設置工事説明書を参照して施工してください。

1. 機器を扉内収納ボックスに取り付けます。
※扉内収納ボックスの取り付け方法は扉内収納ボックスの工事説明書を参照して施工してください。
2. PS 金枠上部の穴に M5 小ネジ（扉内収納ボックス付属部品）を仮止めします。
3. 扉内収納ボックス上部のひょうたん形の穴を金枠上部に仮止めたネジに引っ掛けてください。
4. 扉内収納ボックスの左右の穴（各 2 箇所）を金枠の穴にあわせ、M5 小ネジ（4 本：扉内収納ボックス付属部品）で固定してから上部の M5 小ネジ（1 本）を締めてください。

PS 標準設置の場合



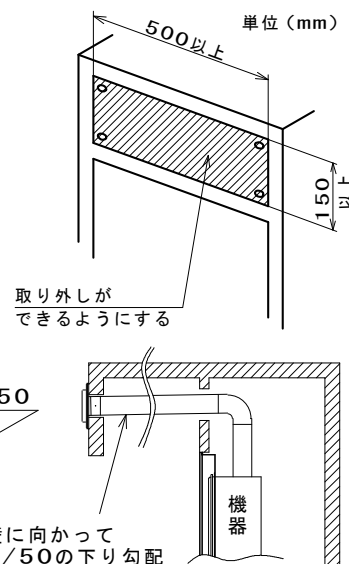
PS 扉内設置の場合



- ・ARS9（上方排気延長形）の場合、排気筒の接合やメンテナンスのため、機器上部に高さ150mm×幅500mm以上の点検口を設け、脱着可能なフタを取り付けてください。

排気筒工事

- ・排気筒工事、排気トップ工事は「4. 機器の設置工事」の(1)設置基準および排気筒、排気トップの工事説明書に従って施工してください。
- ・排気筒部品は、必ず東京ガス指定品（一般財団法人日本ガス機器検査協会（JIA）認証品）を使用すること。
- ・排気筒を延長する場合は、防火区間の貫通をさせて、排気筒の経路を決定してください。
- ・排気筒の接続部は排気筒と同等以上の耐食性を有するリベット止め等で容易に外れないようにしっかり固定してください。
- ・排気筒接続部の燃焼ガス漏れを防ぐためシール剤充填などによるコーキングを行ってください。（シール剤は耐熱性のあるものを使用してください。）
- ・NKPパイプ（Oリングシール式排気筒）などのロック機構がある排気筒を使用の場合、コーキングは不要です。
- ・排気トップで結露しやすいため、排気を開放廊下へ出すことは避けてください。
- ・排気筒の横引き部分には先下りの勾配を付け、その先端は凝縮水を排出できる構造としてください。
- ・排気筒には、防火ダンパーなどを絶対に設置しないでください。防火ダンパーが作動した場合、不完全燃焼となり、大変危険です。
- ・排気延長した排気トップの位置と、機器の給気位置とは、同一風圧帯になるよう設置してください。
- ・排気が結露しやすいため必ず断熱材で排気筒を断熱してください。



■排気筒の径と延長限界

排気筒の径	φ100
排気延長限界	最大延長は7m4曲がり、立ち上げ2m以下です。（排気トップは除く、排気アダプター上方L型は曲がりに含まれません） ただし、φ100 トール90エルボ使用の場合は12m4曲がり、立ち上げ2m以下
排気トップ	ベンドトップ：TZ-FBW100NKP(D)、TZ-FBW100NKP(D) ストレート

- ・排気筒の長さおよびエルボの使用個数で右式に従いD値を算出してください。
Dが15より大きい場合、この機器は使用できません。
- ・機器を設置する場所から排気トップまでの所定の延長距離内にあることを確認してください。排気筒延長限界を越えた場合は、異常着火などが発生し危険です。

エルボ90°を使用する場合

$D=L+M \times 2$ L：延長筒部の長さ(m)

M：エルボの個数(個)

（エルボ45°を使用する場合 $D=L+M \times 0.5$ ）

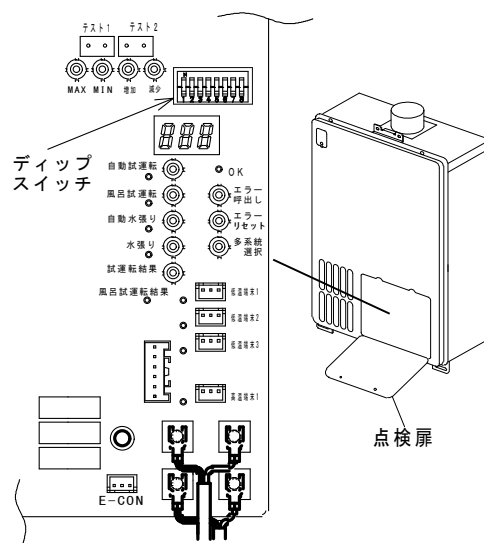
■排気延長設定

ARS9（上方排気延長形）

- ・排気延長する場合は、排気延長の長さによって風量を切り替える必要があります。下表にて排気延長に合った設定を確認し、電装基板上のディップスイッチで設定変更を行ってください。設定変更は必ず電源プラグを抜いて行ってください。他のスイッチは変更しません。

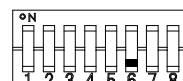
長さ \ 曲り	1	2	3	4
～1m				
～2m				
～3m				
～4m				
～5m				
～6m				
～7m				

〈トールエルボ使用時〉				
長さ \ 曲り	1	2	3	4
～1m				
～2m				
～3m				
～4m				
～5m				
～6m				
～7m				
～8m				
～9m				
～10m				
～11m				
～12m				



□ 部の場合：ディップスイッチ (6：OFF)

■ 部の場合：ディップスイッチ (6：ON)



5. 給水・給湯・ドレン配管工事

⚠ 注意

- ・配管工事は当該地区の指定工事店に依頼し、水道事業条例などの規定に従ってください。
- ・給水、給湯配管は、地域に応じた保温処置をしてください。
- ・各配管が正常に工事されないと、熱源機の故障の原因となります。
- ・配管内のゴミ等が機器内に入ると故障の原因となりますので、ゴミ等が入らないよう注意してください。

給水配管

■配管上のご注意

- ・温泉水や井戸水は使用しないでください。
水道法に定められた飲料水の水質基準に適合しない水を使用した場合、機器を腐食させるなどの耐久性を損なうことがあります。
- ・太陽熱温水器との接続はしないでください。
太陽熱温水器の水温が高くなった時に、お湯の温度制御ができなくなり、高温のお湯がそのまま出ます。やけどの危険性が高く、また機器の故障の原因となります。
- ・機器の給水接続口付近に、必ず逆止弁と給水元栓、または逆止弁付き給水元栓を取り付けてください。
給水元栓を取り付けない場合、機器の点検などができなくなります。
- ・継手類はできるだけ少なくし、配管途中に空気溜りのできるような、複雑な配管は避けてください。誤作動の原因となります。
- ・配管口径は、機器の接続口径以下にしないでください。定格能力が確保されません。
- ・配管材料は、必ず関係水道局の承認または検査に合格したものを使用してください。
- ・この機器をお客様に快適に使っていただくには、給水圧が0.1～0.75MPa (1.0～7.5kgf/cm²) は必要です。
給水圧が低い場合には、機器の能力が十分発揮されず、お客様とのトラブルの原因となりますので、加圧ポンプを設置するなどの対策を講じてください。
- ・給水圧が高い場合には、減圧弁を取り付けるなどのウォーターハンマー防止処置を行ってください。

■給水配管工事

- ・給水配管と機器を接続する前に、給水元栓を開けて、配管内の切粉、ゴミ、砂などを排出してください。
- ・接続にはユニオン継手またはフレキシブル管を使用し、無理な力をかけないでください。ただしフレキシブル管を使用する場合は、地域の水道条例によっては規制されることがありますので注意してください。
- ・給水配管と機器を接続した後、通水テストを必ず行い、給水元栓を閉めてから給水接続口内部のフィルターを取り出し、フィルターを掃除してください。

給湯配管

■配管上のご注意

- ・配管が長いと、それだけお湯の出始めが遅くなります。できるだけ短距離になる配管をしてください。
- ・混合水栓は、通水抵抗の少ないものを選んでください。
シャワーヘッドもできるだけ圧力損失の少ないものを使用してください。
- ・配管はできるだけ機器と同じ高さにしてください。
階上に給湯する場合は、余分に給水圧力が必要となります。給水圧0.15MPa (1.5kgf/cm²) 以上あれば2階給湯は行えます。また階下への給湯は、1フロア下までにしてください。(1フロアを越えて給湯すると機器内部が負圧になり、お湯が沸騰する場合がありますので避けてください。)
- ・必要以上の太い配管はしないでください。
- ・継手類はできるだけ少なくし、配管途中に空気溜りのできるような複雑な配管は避けてください。誤作動の原因となります。
- ・2箇所以上で同時にお湯を使用するときは、配管の方法、特に機器から遠い場所、高い位置の給湯栓ではお湯の出ない場合もありますので、十分検討してください。

■給湯配管工事

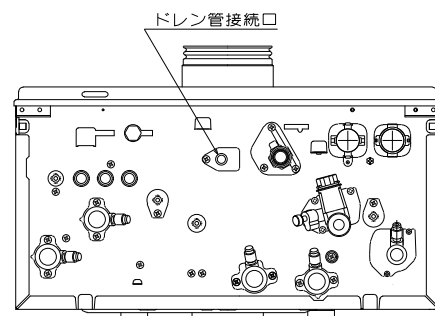
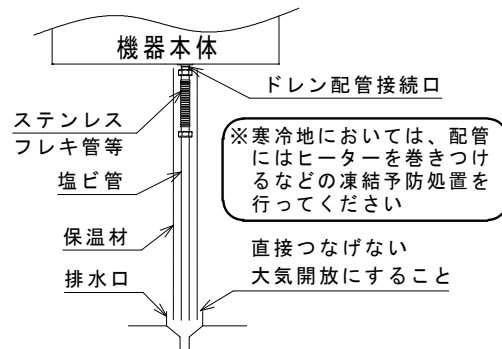
- ・鉛管や水道用塩ビ管は絶対に使用しないでください。機器の使用直後に熱交換器の後沸きにより塩ビ管が破裂し、熱湯が噴き出し、多量の水漏れの原因となります。
- ・樹脂管による配管の場合は、指定されたものを使用してください。
- ・銅管を使用する場合、銅管と継手類の接合は漏水防止のため必ずロウ付けで行ってください。

定期点検のおすすめ（有料）

- ・本機器は、給水用具（逆流防止装置）を内蔵しております。機器を安全・快適にお使い頂くために、公益社団法人日本水道協会発行の「給水用具の維持管理指針」に示されている定期点検の実施をおすすめします。
時期は4～6年に1回程度をおすすめします。

ドレン配管

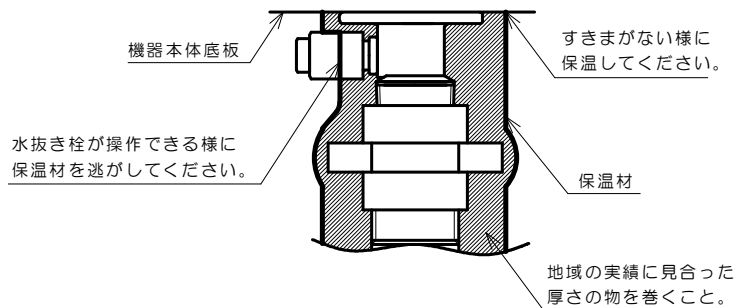
- ・ドレン配管は必ず排水口まで導いてください。
この際、ポリタンク等でドレン水等を受けることは絶対にしないでください。
この機種は暖房水の自動補給方式を採用していますので、万一電磁弁にゴミが附着した場合、水がドレン管に流れる恐れがあります。
ポリタンク等でドレン水等を受けると水があふれますので、絶対にやめてください。
- ・この機器は潜熱回収型高効率製品のため、燃焼時に「ドレン配管接続口」からドレン水が排出されます。（最大約60cc/min）必ずドレン配管工事を行ってください。
- ・ドレン配管は塩ビ管を使用してください。（機器下の配管のつなぎ部位のみ、ステンレスフレキ管等を使用）、また、ドレンが滞留しないように必ず下り勾配とすること。（1/50以上の勾配）
- ・ドレン配管接続口は樹脂製ですので、接続時には無理な力がかからないようにしてください。
- ・お客様要望により逆流防止装置の動作を確認する場合があるため、ドレン配管は機器との取り外し取り付けが容易な接続としてください。シーリング剤を用いないでください。
- ・塩ビ管と樹脂管は、接触しないように配管してください。
- ・機器のドレン配管接続口径は、15Aになっています。
ドレン配管の径は途中で細くしないでください。
- ・ドレン配管は、できるだけ短くしてください。
（配管途中で横引きする場合は、下り勾配にしてください）
- ・ドレン配管の先端は大気開放とし、水につからないようにしてください。
またゴミづまりのないように注意してください。
- ・ドレン配管は、雨水立て管には直接接続しないでください。（間接的に排出するのは可）
- ・凍結予防のため、地域に応じた保温処置（保温材巻、電気ヒーターなど）をしてください。



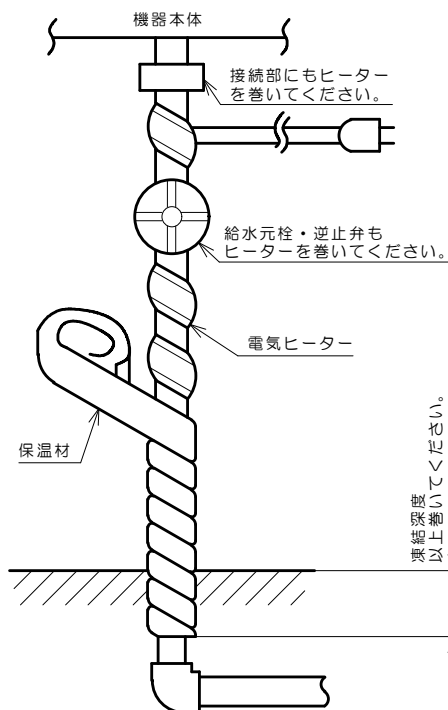
凍結予防

- ・地域に応じた凍結予防処置（保温材巻き、電気ヒーターなど）をしてください。
- ・給水、給湯配管に水漏れがないことを確認した後、配管を完全に保温してください。
配管内の水抜きが容易にできるよう処置してください。
（水抜き栓を保温材で包み込まないでください）

※パイプシャフト内の配管には電気ヒーターを巻けませんので、保温材を厚めにしてください。



保温材巻きつけについて



保温材(ヒーター)巻きつけについて

6. ふろ配管工事

■配管上のご注意

- ・配管材料は、指定のφ10 樹脂管、またはφ12.7 銅管を使用してください。
- ・配管長さは、できるだけ短くしてください。
- ・最小曲げ半径などの施工の条件・方法についてはTES施工指針に従ってください。
- ・地域に応じた凍結予防処置（保温材巻き、電気ヒーターなど）をしてください。
- ・水漏れ検査をして、配管に漏れがないことを確認した後、配管を完全に保温してください。
- ・配管内のゴミ等が機器内に入ると故障の原因となりますので、ゴミ等が入らないよう注意してください。
- ・人工炭酸泉装置が設置される場合は、追いだき配管をしないでください。人工炭酸泉装置は高濃度の炭酸ガスを湯に溶かしこむため、弱酸性となります。そのため、追いだきを行うと機器内の配管・内胴・浴槽内の循環金具等が変色・腐食する場合があります。

■配管の最大延長

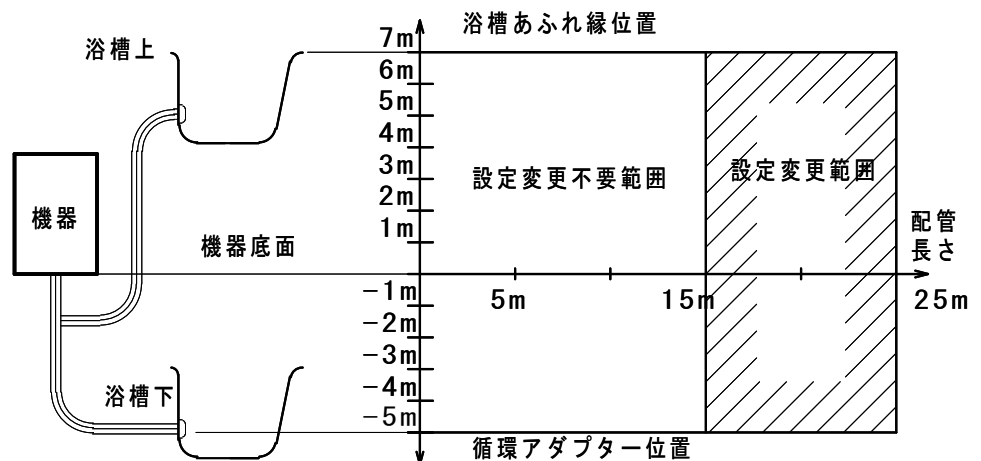
- ・φ10 樹脂管：25m 以内（浴室配管を含む）
- ・φ12.7 銅管：15m10 曲り以内（浴室配管を含む）

15mを超える場合は、P16の「ふろ配管延長の設定方法」を参照し設定変更を行ってください。

■機器と浴槽の位置関係

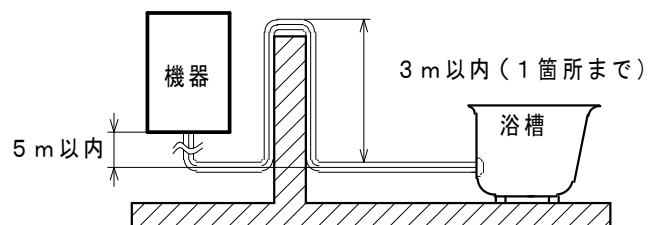
下図の範囲内で設置可能ですが、浴槽の配管延長・浴槽高さにより設定変更が必要です。

- ・機器と浴槽の上下関係



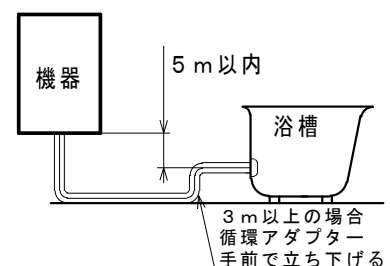
- ・機器と浴槽の間の障害物

配管の途中に障害物がある場合は、高さ3m以内で1箇所としてください。



- ・機器が浴槽より高い場合

機器が浴槽の循環アダプターから高さ3m以上に施工される場合
循環アダプター手前で立ち下げてください。



P16「ふろ配管延長の設定方法」を参照し設定変更を行ってください。

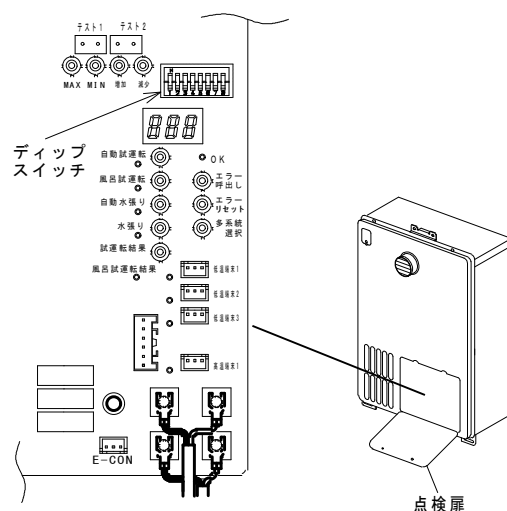
■ふろ配管延長の設定方法

必ず電源プラグを抜いてください。

1. 機器点検扉を開ける。
2. 電装基板上的ディップスイッチにて下表に従い設定変更する。
その他のスイッチは変更しません。

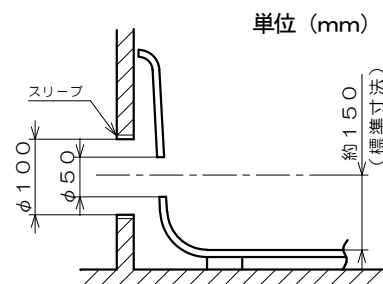


配管長さ	ディップスイッチ	
0～15m	設定不要 工場出荷時 7…OFF	
15 超～25m	7…ON	



■浴槽の穴あけ工事

- ・浴槽の底部から約150mmの、できるだけ浴槽の中心に近い位置で循環アダプター取り付け面が平面な部分(直径80mm以上を確保)に、 $\phi 50 \pm 1\text{mm}$ の穴を1箇所あけてください。この標準寸法以外ですと、沸き上がり温度が均一になりにくくなったり、設定湯量にバラツキがでたりすることがあります。
- ・浴槽穴あけ後のバリをきれいに取り除いてください。
- ・循環アダプターのパッキン当たり面は、厚みが均一になるよう浴槽の保温材を除去し、内側、外側とも凹凸のないように仕上げてください。穴あけ後のバリや凹凸があると水漏れの原因となります。



■循環アダプターについて

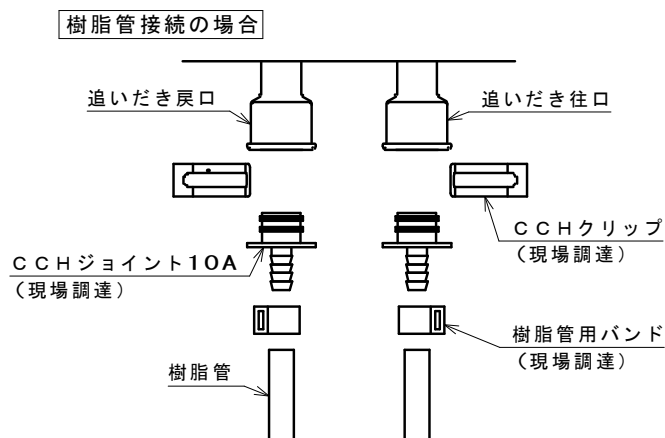
- ・循環アダプター（別売部品）は、東京ガスの指定品の中から設置条件、配管材料に合わせて選定してください。
- ・循環アダプターに同梱されている工事説明書に従い、正しく工事してください。
締め過ぎによるパッキンのねじれなど、水漏れの原因となります。
- ・循環アダプターに往・戻の指定がある場合は、機器底面の表示を確認して接続してください。

■配管と機器との接続

- ・配管工事は据置台側面パネルを取り外しての作業も可能です。
- ・TES施工指針に従って施工を行ってください。
- ・ふろ配管には接続継手が別途必要となります。
- ・樹脂管接続、銅管接続により接続継手が異なりますので接続方法にあった部材を用意してください。

樹脂管接続の場合

- ・ふろ配管に樹脂管を使用する場合は、CCHジョイント10A（現場調達）とCCHクリップ（現場調達）を使用してください。

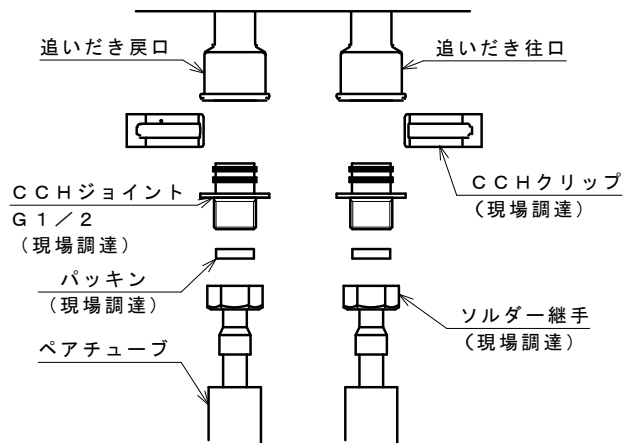


銅管接続の場合

〈1/2 袋ナット接続〉

- ・配管に銅管を使用する場合は、CCH ジョイント G1/2（現場調達）と指定の溶ダー継手（現場調達）を使用してください。
- ・パッキン（現場調達）を必ず使用してください。

銅管接続の場合



ふろ配管水漏れ検査

- ・水漏れ検査は、保温工事の前に、圧力試験と目視触感で行ってください。
- ・循環アダプターに適合した検査治具を使用してください。取り付け手順などは、検査治具の説明書に従ってください。
- ・検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものを使用してください。
- ・検査圧力と時間は T E S 施工指針に従って行ってください。
0.15MPa (1.5 kgf/cm²) で 30 分以上
- ・圧力漏れが発見された場合は、検査治具をいったん外し、浴槽穴あけ部のバリやゴミおよびパッキンのねじれがないことを確認し、再度検査を行ってください。

⚠注意 機器には 0.3MPa (3.0kgf/cm²) 以上加圧しないでください。

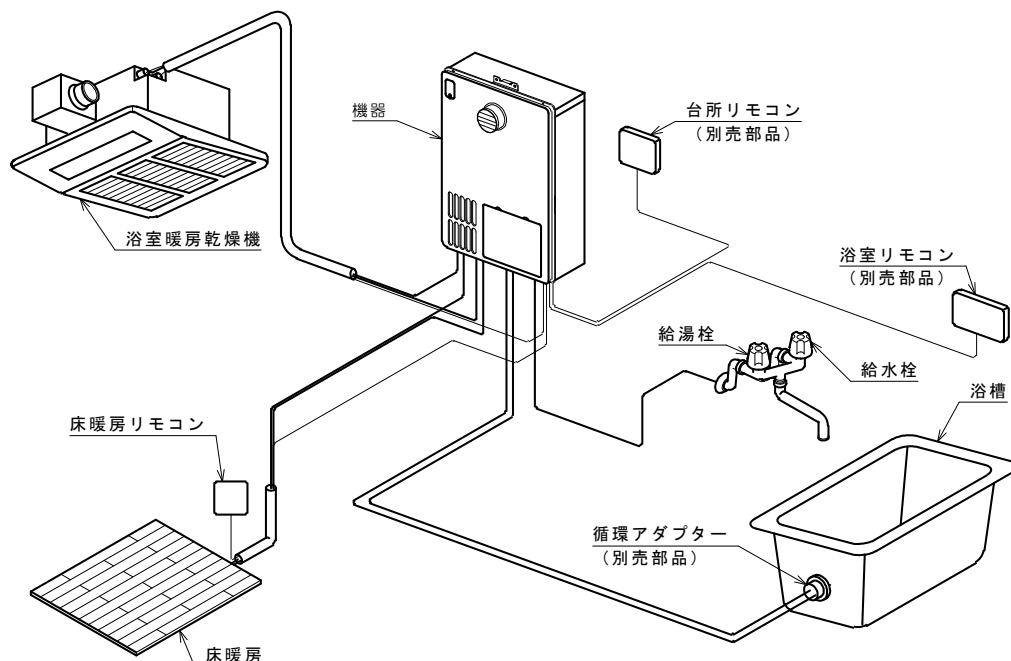
7. 暖房配管工事

- ・本製品は、暖房回路の熱を利用して給湯運転を行いますので、暖房配管を必ず行ってください。

■暖房配管工事

システム図

機器の配管位置は
実際とは異なります



配管前のご注意

- ・各暖房配管の流量および抵抗計算を行い、各放熱機に標準流量が流れることを確認してください。
- ・システム全体の保有水量は、機器内 2.6L を含め 35L（銅管システムの場合は 24L）以下にします。
これを越えすと、暖房運転時に設定以上の暖房水（膨張分）がドレン配管から流出し、冷却時にひんぱんに自動補給して、リモコンに故障表示をして暖房運転ができなくなります。
- 「5. 給水・給湯・ドレン配管工事」の **ドレン配管** も参照してください。
- ・端末機までの距離に応じて、φ7 または φ10 の樹脂管を選定してください。

配管上のご注意

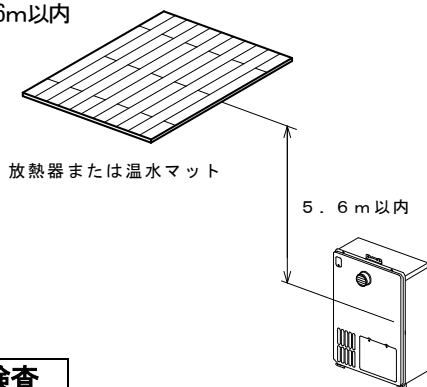
- ・指定の配管材料を使用してください。
- ・最小曲げ半径などの施工の条件・方法については、TES施工指針に従ってください。
- ・暖房配管は原則として隠ぺい配管とし、隠ぺい部での接続は行わないでください。
- ・配管が露出する場合には、耐候性および美観を考慮し、スリムダクトなどの化粧カバーを使用してください。
- ・暖房往・戻の統一のため、樹脂管の場合は配管部材の表面に線が入っている側、銅管の場合は表面が着色されている側を往側としてください。
- ・不凍液を使用しない場合は、凍結、放熱を考慮して、地域に応じた配管の保温処置をしてください。
- ・不凍液を使用する場合は、指定品を使用し、その使用説明書に従ってください。

機器との接続

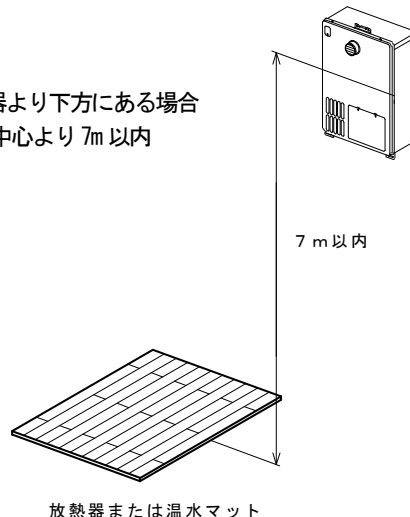
- ・CH ヘッダー（現場調達）は、暖房系統数に合わせて選択してください。
- ・ヘッダー（熱動弁付ヘッダーは除く）の接続口のうち、どれか一つは漏れ検査と水抜きに使用するため接続はせず、CH 止水栓（現場調達）およびCH クリップ（現場調達）もしくはスナップジョイント止水栓（現場調達）を確実に差し込んでください。接続しない接続口についても同様です。
- ・接続しない機器の暖房接続部は、必ずCH 止水栓（現場調達）およびCH クリップ（現場調達）を確実に差し込んでください。
- ・配管を機器と接続する時、暖房往・戻を間違えないでください。
- ・CH ヘッダーやCH ジョイント、CH 止水栓およびスナップジョイント止水栓などのリングに傷、汚れ、異物の付着がないことを確認して接続してください。

端末機の高低制限

- ・端末機が機器より上方にある場合
機器の上下中心より 5.6m 以内



- ・端末機が機器より下方にある場合
機器の上下中心より 7m 以内



暖房配管水漏れ検査

- ・水漏れ検査は、圧力試験と目視触感で行ってください。
- ・検査に使用する圧力計は、検査圧力に見合ったものを使用してください。
- ・検査圧力と時間は、TES施工指針に従って行なってください。
0.2MPa (2.0 kg f/cm²) で 30 分以上行ってください。

8. ガス配管工事

⚠ 注意

- ・設置する機器が使用するガスの種類（ガスグループ）に適合していることを、機器の銘板で確認してください。
表示以外のガスを使用すると不完全燃焼や異常点火などの原因となります。

ガス栓

- ・機器を使用する場所にガス栓がない場合、またはあっても位置や寸法が適切でない場合は、新設・移設または交換などが必要ですので、東京ガスに相談して専用のガス栓を必ず設けてください。

ガス接続

- ・ガス配管工事については、東京ガスの指示に従ってください。
- ・この機器のガス接続口径は 20A (R3/4) です。
- ・ガス配管は、強化ガスホース、金属可とう管または金属配管としてください。（ゴム管接続はできません）
- ・配管口径は、機器の接続口径以下にしないでください。ガス量が十分に供給されず、能力が確保できません。
- ・ガス配管工事後、接続部にガス漏れがないか確認してください。
- ・機器の移動、撤去でのネジ接続配管工事については、有資格者により正しく行ってください。

9. 電気配線工事

⚠ 注意

- ・設置する機器が使用する電源（電圧・周波数）に適合していることを、機器の銘板で確認してください。
- ・全ての電気配線工事が完了するまで、機器の電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
感電や機器の故障の原因となります。



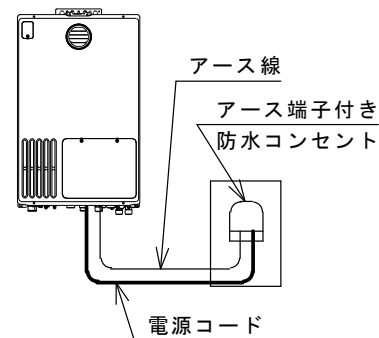
配線上のご注意

- ・この機器はAC100V 電源が必要です。またアース（接地）も必要です。電気設備に関する技術基準など電気設備関連法規を遵守して工事してください。
- ・電気配線は、電力会社の指定工事店に依頼してください。
- ・電源コードはガス管等に接触しないように、また機器排気口の放熱等の影響を受けないように配線してください。
- ・電源コードが余った場合は、機器内に入れず、据置台や配管カバーなどの中にまとめてください。
機器内に入れると故障の原因となります。
- ・AC100V 電源を必ず専用回路としてください。



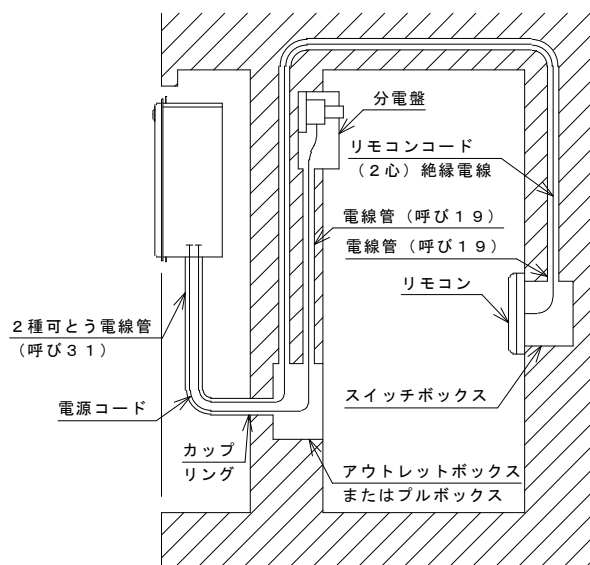
PS（パイプシャフト）内以外の電源コンセント

- ・機器の電源は、AC100V (50/60Hz 共用) です。消費電力は銘板で確認の上、必ずこれに適したコンセントを設けてください。
- ・コンセントは地上から 300mm 以上で、電源プラグの抜き差しができ、機器排気口の放熱等の影響を受けない位置に設けてください。
- ・コンセントは JIS 防雨形屋外タイプ（接地端子付）を使用してください。
やむを得ず他のコンセントを使用する場合は、雨線内に設置するか、適切な防水箱内に収めるか、または屋内の分電盤を利用してください。
- ・コンセントとガス管および水道管とは 100mm 以上離してください。



PS（パイプシャフト）内設置の場合

- ・PS 内に機器の電源電線、リモコン配線を行う場合は、電気設備に関する技術基準を遵守してください。
- ・PS 内はケーブル工事としてください。
- ・PS 内では、電源コードはパイプシャフト用の電源ケーブルを使用してください。
- ・ケーブル配線は、可とう電線管で保護してください。
- ・壁等にラシ網、金属張りのものが埋め込まれている場合金属製の電線管および可とう電線管がこれに接触しないようにしてください。
- ・機器本体をパイプシャフト内に設置する場合、リモコンコードは絶縁電線を使用してください。（AC100V ケーブルと並走する範囲）
- ・PS 内では、電源用ケーブルおよび接続電線を切断接続しないでください。
- ・PS 内および内壁面には、配線ボックスを使用しないでください。
ただし、防爆構造を施したものはこの限りではありません。
- ・電線管が PS 内壁面を貫通する部分は、コーキング材によりシールし、パイプシャフトの PS 外との気密が保たれる設置をしてください。
- ・AC100V ケーブルと信号コード（リモコン）は、可とう電線管に同時に納めることができますが、可とう電線管以後は AC100V ケーブルと信号コード（リモコン）とは別経路としてください。
- ・分電盤は専用回線にしてください。
- ・ガス配管とケーブルとは接触しないようにご注意ください。



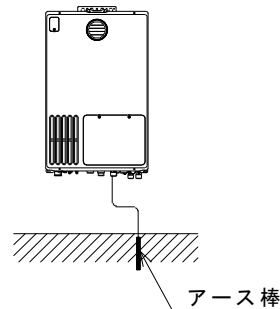
※防爆工事は電気設備に関する技術基準を定める省令の基準に準じてください。



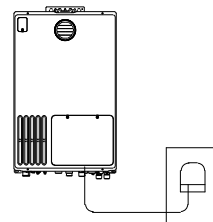
接地（アース）工事

- ・万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準によるD種接地工事（接地抵抗 500Ω以下）を電気工事士の資格を持った人が行ってください。
- ・アース線は、φ1.6mm以上の軟銅線を使用してください。
- ・アース線は、ガス管や水道管、電話や避雷針のアース回路には接続しないでください。また他の製品のアース回路にも接続しないでください。
- ・アース端子は、機器本体の底面のアース表示、または機器内の電装基板下部のアース表示で接続端子を示してありますので、工事に合わせていずれかを使用してください。
- ・この機器には、漏電安全装置（感度電流 6mA、作動時間 0.1 秒以下）を内蔵しています。

●アース棒を使用する場合



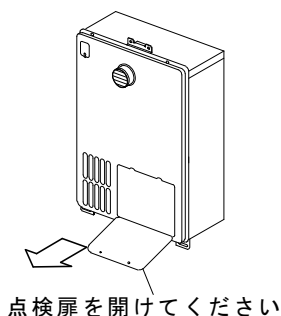
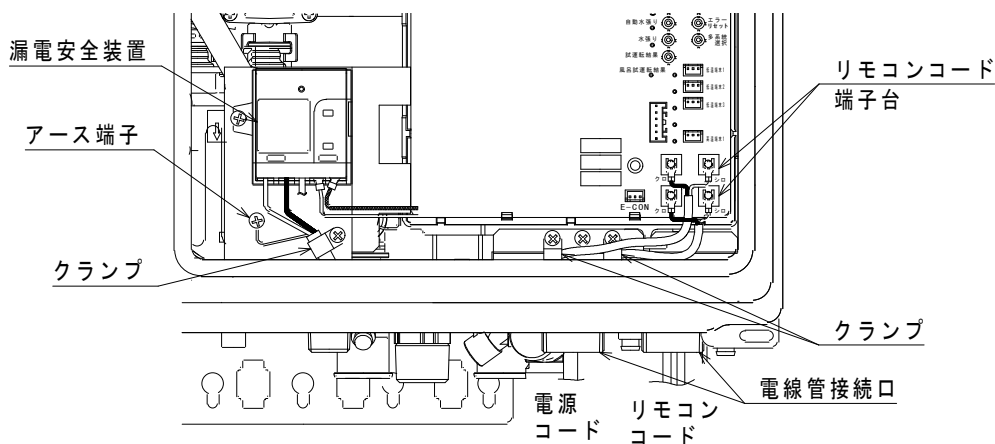
●アース付コンセントの場合



アース棒

●機器と電源コード・リモコンコード接続例

必ず電源プラグを抜いてから作業を行うこと



点検扉を開けてください

機器と電源コードの接続

■電源コードについて

- ・電源コード（現場調達）は、VCT2 心、または 3 心を使用してください。ただし PS（パイプシャフト）の構造によりケーブル工事が必要な場合は、指定のケーブルを使用してください。



グロメット

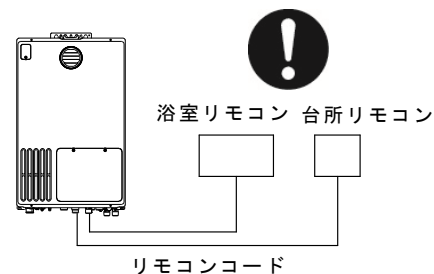
■機器と電源コードの接続手順

1. フロントカバーの点検扉を開けます。（ビス 2 本）点検扉は試運転終了後に取り付けてください。
2. 上記の図を参照し、電源コードを電線管接続口（グロメットを取り外さないこと）から機器内へ入れてください。
3. 電源コード先端に丸型端子（現場調達：樹脂スリーブ付）を取り付け、漏電安全装置（漏電リレー）のカバーを外し、一次側に取り付ける。（3 心の場合は上記の図の位置にアースを取り付ける）
4. 漏電安全装置のカバーを元通りに取り付けて、電源コードをクランプで固定する。

機器とリモコンコードの接続

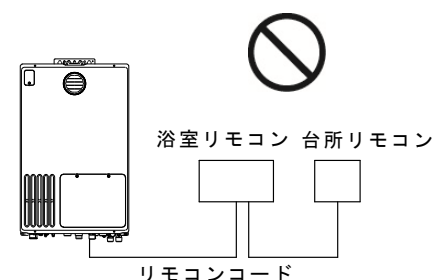
■リモコンコードについて

- ・リモコンコードは東京ガス指定品（別売部品）を必ず使用してください。
- ・工事の際は、電気設備に関する技術基準などの関連法規を遵守してください。
- ・リモコンコードは、必ず機器本体の電装基板から配線してください。
- ・リモコンコードは、1つのリモコンに付き長さ 25m 以内で使用してください。25m を超えると機器の作動不良の原因となります。リモコンコードと電源コードとは、並走させないでください。
- ・リモコンコードを途中で中継して、リモコンからリモコンへ配線しないこと。1つのリモコンに対し、1本のリモコンコードを使用してください。機器の故障・作動不良の原因になります。
- ・パイプシャフト内に機器を設置する場合、リモコンコードは指定の 2 心コードを使用してください。



浴室リモコン 台所リモコン

リモコンコード

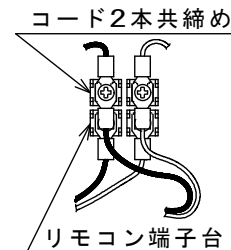


浴室リモコン 台所リモコン

リモコンコード

■機器とリモコンコードの接続手順

- リモコンコードの接続が完了するまで、機器本体の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。リモコンや機器の故障の原因となります。
 - フロントカバーの点検扉を外します。（ビス2本）点検扉は試運転終了後取り付けてください。
 - リモコンコード先端にY型端子（リモコンに付属の樹脂スリーブ付）を取り付けてください。前記の図を参照し電源とは別の電線管接続口から機器内へ入れてください。その際、グロメットを取り外さないこと。
 - リモコンコードの端子をリモコンコード端子台に確実に接続する。
※増設リモコンなど複数のリモコンを使用する場合、端子台1つにコード2本まで共締め可能です。コード3本を接続する場合は、機器内で1本にまとめて圧着した後、端子台に接続する。
 - リモコンコードをクランプで固定する。
※リモコンコードが余った場合は、機器内に入れず、据置台や配管カバーなどの中にまとめてください。機器内に入れると故障の原因となります。
- 機器との電源コード及び、リモコンコード接続はフロントカバーを取り外して配線作業を行うこともできます。



複数のリモコン
を使用する場合

リモコンの設置

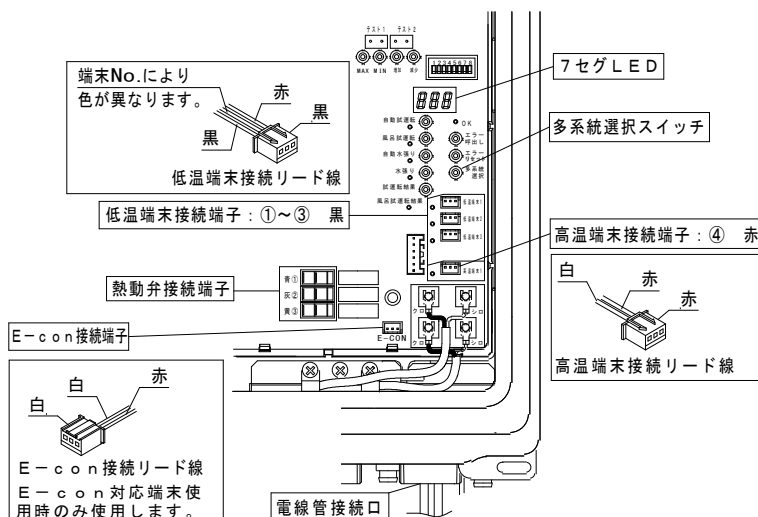
- リモコンは、別売部品の中から指定されたものを使用してください。（別売部品リストを参照してください）
- リモコンの施工、接続はリモコンに付属の工事説明書に指定された工事で設置してください。
- リモコンは、段差のない壁面に設置してください。
- 高機能タイプの浴室リモコンは、全自動タイプでは体脂肪率測定および消費カロリーの測定が可能です。体脂肪率を測定する場合、浴槽に入った状態で操作を行いますので必ず、浴槽に入った状態で十分操作ができる場所に設置してください。

10. 暖房信号線接続工事

- 暖房信号線接続工事は、必ず電源プラグを抜いて行ってください。
- 高温暖房は、インテリジェント通信（自動試運転機能付）対応の端末と、E-con 端末の併用ができます。低温暖房（床暖房リモコンを使用する場合）は、インテリジェント通信対応の端末と接続が出来ます。この機器は、インテリジェント通信仕様書 第6版（Ver6.00）に対応しています。
- 床暖房リモコン側で信号線を分岐しないでください。機器の故障や作動不良の原因になります。
- 信号線を、機器底部の電線管接続口（電源とは別の箇所を選ぶ）から機器内に引き込む際、電線管接続口のグロメットを取り外さないでください。



信号線の接続



- 電装基板の低温端末接続端子（黒コネクタ①～③）は低温用です。ただし、③は高温用としても接続可能です。高温端末接続端子（赤コネクタ④）は高温専用です。低温端末接続端子①～③には低温端末接続リード線を、高温端末接続端子④には高温端末接続リード線を使用します。
- 低温暖房3系統+高温暖房1系統まで接続できますが低温暖房を2系統以下で使用する場合は、低温端末接続端子（黒コネクタ③）を高温暖房用に使用して高温暖房系統数を増やすことができます。
- 低温端末接続端子（黒コネクタ③）を高温用として使用する場合は、低温端末接続リード線（3心）の黒いリード線を除いた2心を圧着接続します。
- 接続リード線と信号線の接続部分（圧着端子）は機器内に入れてください。機器外では、接続部分の心線が腐食するなどの故障の原因となります。
※ 機器と信号線を接続するときには、フロントカバーを取り外して配線作業を行うこともできます。

低温端末の接続

- 付属の低温端末接続リード線（3心）と各床暖房リモコンからの信号線を接続します。
下記の表を参照し、接続端子の番号とリード線の色は必ず合わせてください。

接続端子（熱動弁）No.	1(青)	2(灰)	3(黄)
低温端末接続リード線色	赤、青、黒	赤、灰、黒	赤、黄、黒

- 電装基板の低温端末接続端子に、信号線と接続した低温端末接続リード線（3心）のコネクタを差し込みます。
熱動弁の番号(信号線)と接続するリード線の色は上記表を参照し必ず合わせてください。

■1つの床暖房リモコンで2系統以上の床暖房を運転する場合

- まとめて複数の熱動弁を1つの床暖房リモコンで動かす場合、以下の手順に従ってください。
 - 電装基板上の多系統選択スイッチを3秒間押し続けてください。
7セグLEDの下位1桁目に「1」が点滅します。
 - 多系統パターンは3パターンありますので、下表を参考に選択してください。
多系統選択スイッチを押し、設定したい番号を表示させ5秒間そのままの状態にすると、そのとき表示されている番号が選択されます。
 - 多系統の設定が完了したら、機器点検扉の裏面に貼ってある「多系統設定ラベル」に設定した多系統パターンの番号にチェックを入れてください。

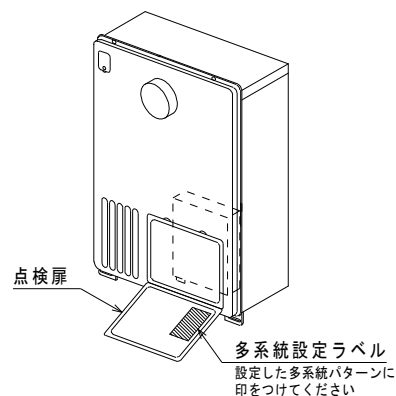
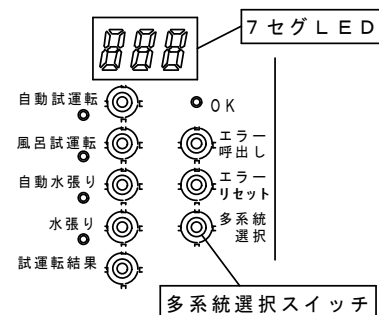
機器の制御に支障をきたす可能性があるため、熱動弁電源線の共締めは行わないでください。
また、多系統設定の確認及び設定後電源を切る操作は、操作後1分以上経過してから行ってください。（設定を記憶するのに1分必要です）

機器の電源が切れている状態から確認を行う場合、電源を投入してから1分以上待つて確認してください。

（電源投入してから1分以内は、「1」の表示しかしません。）

パターン	①			②			③		
端末接続端子（床暖房リモコン）	1	2	3	1	2	3	1	2	3
熱動弁	1	2	3	1	2	3	1	2	3
連動部分の説明				リモコン1は1、2の熱動弁と連動			リモコン1は1、2、3の熱動弁と連動		

注意：上記3パターン以外のパターンは使用できません。



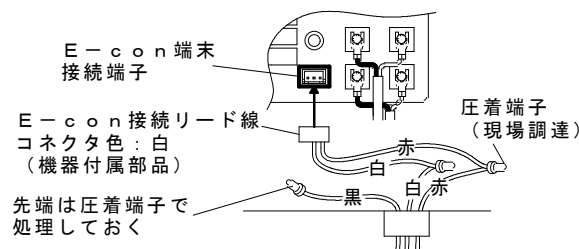
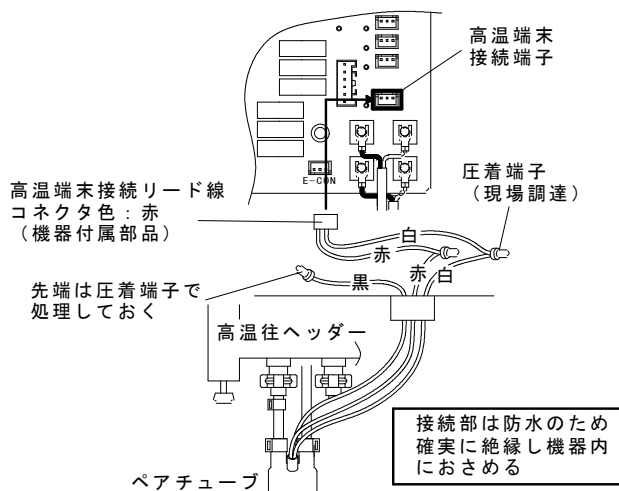
高温端末の接続

■インテリジェント通信対応端末の場合

- 付属の高温端末接続リード線（2心）と各端末からの信号線を接続します。接続する際は、各系統の信号線と対応させてください。
- 高温端末接続リード線（2心）は1本付属されていますが、高温暖房を2系統接続する場合は低温端末接続リード線（3心）を使用してください。その際、黒いリード線は使用しないので防水のため圧着端子で先端を処理してください。
- 電装基板の高温端末接続端子に、信号線と接続した高温端末接続リード線（2心）のコネクタを差し込みます。

■E-con 端末の場合（80℃温水供給のみ）

- インテリジェント端子を持たない端末は、E-con 接続となります。
- 付属の2心のE-con 接続リード線と各端末からの信号線を接続します。
- 電装基板のE-con 接続端子に、信号線と接続したE-con 接続リード線コネクタを差し込みます。
（アメニティドライ機能付きのエアコンは接続できません。）
黒いリード線は使用しないため、防水のため圧着端子で先端を処理してください。



1 1. 設置工事後の確認

- ・設置工事が終わりましたら、もう一度、以下の項目を確認してください。
- ・付属部品、別売部品は、設置工事説明書で指定されているもの、もしくは東京ガス指定のものを使用しているか確認してください。

熱源機およびその周辺について

- ・可燃物との距離および火災予防上の処置は十分ですか。
- ・熱源機の設置場所の条件は満足していますか。
- ・日常の使用および点検に支障をきたしませんか。
- ・点検・修理などの保守・管理に必要な空間はありますか。
- ・据置台および配管カバーのフロントカバーは確実に取り付けし、取付ネジはしっかり締め付けられていますか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(1)設置基準および(3)設置場所のご注意を満足していますか。

ガス配管について

- ・ガス栓を開け、ガス配管に漏れはありませんか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(2)設置前のご注意 **使用ガスの確認** および「8. ガス配管工事」の注意事項を満足していますか。

排気について

- ・「4. 機器の設置工事」(1)設置基準および(3)設置場所のご注意 **排気の注意** を満足していますか。

電気配線について

- ・電源コンセントの種類、位置は適正ですか。
- ・電源コードの端子部の固定や、信号線の接続部の圧着は確実ですか。またコネクタはしっかり端子に入っていますか。
- ・アース（接地）工事はされていますか。
- ・浴室リモコン・台所リモコンおよび熱源機の電装ユニットへの配線は指定された工事がされていますか。
- ・配線接続部に短絡箇所はありませんか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(2)設置前のご注意 **使用電源の確認**、「9. 電気配線工事」および「10. 暖房信号線接続工事」の注意事項を満足していますか。

給水・給湯配管について

- ・給水元栓を全開にして、給水栓・給湯栓を開き、水・湯が出てくることを確かめてから、給水・給湯配管に水漏れはありませんか。
- ・その他、「4. 機器の設置工事」(2)設置前のご注意 **給水配管の確認** および「5. 給水・給湯・ドレン配管工事」の注意事項を満足していますか。

ふろ配管について

- ・ふろ試運転後、ふろ配管や循環アダプター部分に水漏れはありませんか。
- ・その他、「6. ふろ配管工事」の注意事項を満足していますか。

暖房配管について

- ・試運転で水張りした後、暖房配管の特に接続部に水漏れはありませんか。
- ・その他、「7. 暖房配管工事」の注意事項を満足していますか。

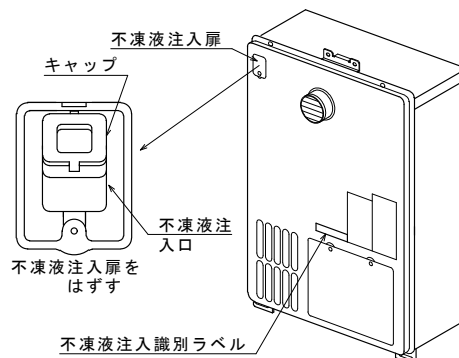
不凍液を使用する場合

⚠ 注意

- ・不凍液を入れる場合は、指定品を使用し、不凍液の使用説明書に従い正しく使用してください。特に濃度は、30～35%となるように調整してください。誤った使用方法は、防錆効果・凍結性能が低下するだけでなく、機器や暖房回路に悪影響を与え、故障の原因となります。
- ・不凍液を入れた場合は、**不凍液が入っています** のラベルを、機器フロントカバーに貼り付けしてください。

不凍液注入方法について

1. フロントカバーの不凍液注入扉を外す。（ビス 1本）
2. 不凍液注入口のキャップを外す。
3. 不凍液をこぼさないように注入する。
万一こぼしてしまった場合は完全にふき取ってください。
機器の故障の原因となります。
4. 暖房回路のエア抜きを行う。
5. 注入後、不凍液注入口のキャップは確実にはめてください。
外れていると機器の故障の原因となります。
6. 不凍液注入扉を取り付け後、機器に同梱の不凍液注入識別ラベル
不凍液が入っています をフロントカバーに貼り付けてください。



12. 試運転

- ・取扱説明書の内容に従い試運転を行って、正常に作動することを確認の上、お客様に使用方法を説明して、お引き渡しください。
- ・試運転終了後、点検扉を取り付けてください。

試運転の準備

1. 機器本体の、給水や給湯などの全ての水抜き栓を閉めてください。
2. 給水元栓を開き、シャワーなどを含む全ての給湯栓から水が出ることを確認し、全ての給湯栓を閉めてください。
3. 暖房ヘッダー（高温往、戻り）のバルブを開けてください。
4. 床暖房システムの自動試運転を行う場合は、床温センサー（現場調達）をセットしてください。
5. 浴槽が空になっていることを確認し、排水栓を閉めてください。
残水があると、次の自動運転時の水位が変化するなど正常に作動しません。
6. ガス栓を開き、機器および端末の電源プラグをコンセントに差し込んでください。
リモコンと機器の通信に30～60秒ほどかかります。通信中はリモコンのボタンを押しても作動いたしません。
しばらくお待ちください。（通信終了後、リモコンはチャイムが鳴り使用できることをお知らせいたします。）

試運転の注意

1. この製品は、暖房回路の熱を利用して給湯運転を行います。従いまして試運転は、①暖房→②ふろ→③給湯の順に行ってください。
（暖房運転を行うことにより、機器内部が補水されます。）
2. 暖房試運転を行わずに給湯運転を行うと、機器は自動的に機器内部の補水・エア抜きを行います（約90秒）。
この間、お湯が出ません（点火しません）。約90秒後に再出湯させて給湯運転を確認してください。
3. 暖房試運転スイッチとふろ試運転スイッチを両方押した場合は、暖房試運転が優先されます（ふろ試運転は待機状態になります）。
暖房試運転が完了した後に、ふろ試運転が開始されます。ただし、スイッチは同時押ししないでください。試運転が開始されない場合があります。
4. 自動試運転中および自動水張り運転中に、端末の電源を抜かないでください。
電源が入っていませんと正常に作動しません。
5. ガス配管中の空気を完全に抜いてからでないと点火しません。
点火するまでガス配管中の空気抜きをしてください。

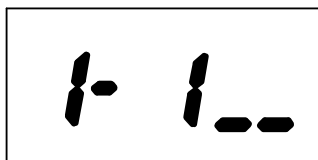
暖房の試運転

■暖房温水温度（低温行き温度）の設定変更方法

工場出荷時には「60℃」の設定になっています。
リモコンにより操作方法が異なりますので下記を参考に設置のリモコンにあった変更作業を行ってください。

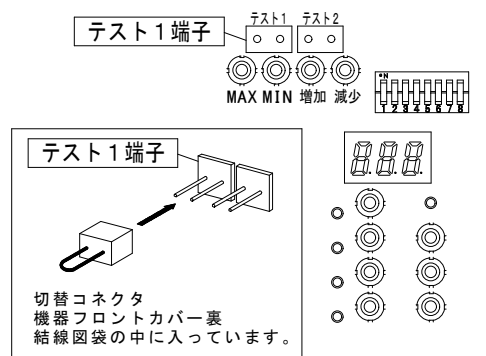
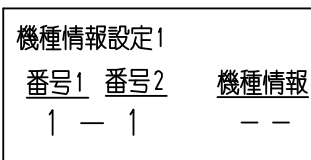
1. フロントカバーを外し、フロントカバー裏の袋内の切替コネクタを電装基板の「テスト1」端子に差し込みます。
2. 浴室リモコンの時計表示部に「1 1 --」が表示されます。

XBR-A14A-CV 表示部

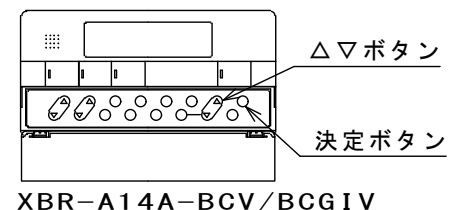
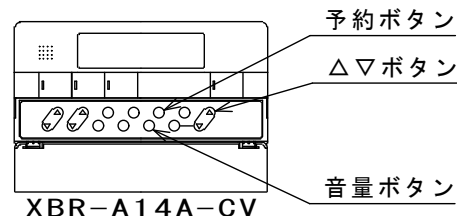
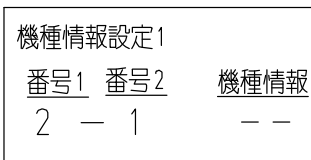
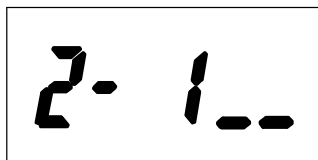


時の位 分の位 給湯温度表示部

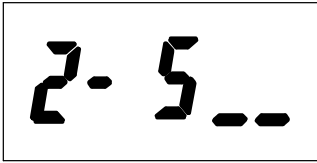
XBR-A14A-BCV/BCGIV 表示部



3. 【XBR-A14A-CV】「予約」ボタンを押し、時計表示部を「2 1 --」にあわせませす。
【XBR-A14A-BCV/BCGIV】△▽ボタンを押し、番号1を「2 1 --」にあわせ、「決定」ボタンを押します。



4. 【XBR-A14A-CV】△▽ボタンを押し、「2 5 --」にあわせ音量ボタンを押します。
 【XBR-A14A-BCV/BCGIV】△▽ボタンを押し、番号2を「2 5 --」にあわせ、「決定」ボタンを押します。

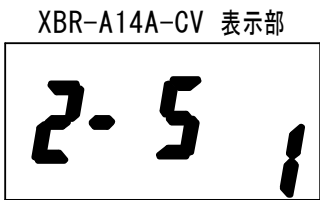


機種情報設定1		
番号1	番号2	機種情報
2	5	--

5. 【XBR-A14A-CV】給湯温度表示部を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に給湯温度の△▽ボタンであわせ、「音量」ボタンを押します。
 【XBR-A14A-BCV/BCGIV】機種情報を下表で変更したい温水温度（低温行き温度）番号に給湯温度の△▽ボタンであわせ、「決定」ボタンを押します。

温水温度（低温行き温度）設定

リモコン表示		機能	設定
2	5	0	60℃
		1	50℃
		2	55℃
		3	65℃
		4	70℃



機種情報設定1		
番号1	番号2	機種情報
2	5	1

例) 50℃に設定

6. 正しくセットされると給湯温度表示部が点滅から点灯に変わり「セットされました」と音声で報知します。
 7. 電装基板上の「テスト1」端子の切替コネクタを抜くと設定が終了します。
 暖房温水温度の設定変更方法の詳細はフロントカバー裏の袋内にある故障診断シートを参照してください。
 8. 設定変更後、切替コネクタは紛失しないようにフロントカバー裏の袋内に収納してください。

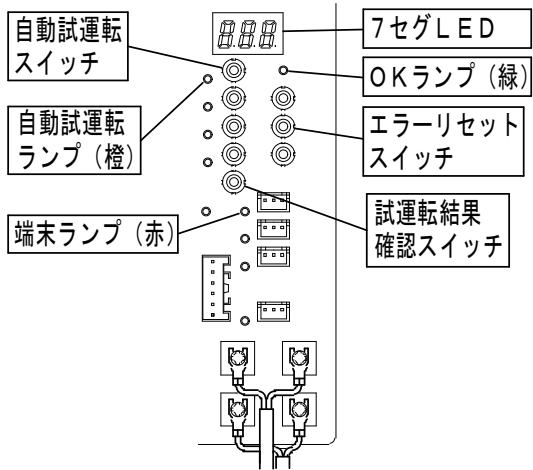
■自動試運転（インテリジェント通信対応端末を使用する場合）

床温センサー（現場調達）を使用しない場合は、■自動水張り（P26）で行います。

- 電装基板上の「自動試運転スイッチ」を押します。
- 自動試運転ランプ（橙）が点灯します。
- 信号線が接続されている接続端子に対応した端末ランプ（赤）が全て点灯します。
- 接続端子No.1の系統から、端末1つずつ試運転を行っていきます。
エアコンの場合は、同時に冷房試運転を行います。
- その端末の試運転が正常に終了すると端末ランプ（赤）が消灯し、次の端末の試運転に移ります。
- 全ての端末ランプ（赤）が消灯すると、試運転終了です。
- 基板表示部（7セグLED）に「END」が表示します。
- 暖房およびふろ試運転が正常に終了した場合、OKランプ（緑）が点灯（常時点灯）します。

試運転未実施または異常がある場合、OKランプ（緑）は消灯したままです。

※信号線が接続されている接続端子に対応した端末ランプ（赤）が点滅した場合は、試運転エラーですので、対応する端末または機器の状態を確認し、その後、再度自動試運転を行ってください。その場合、前回正常に試運転を終了した端末の試運転は省略します。（作業手順2.でいったんランプが全て点灯しますが、5～10秒後に正常終了した系統のランプは消灯し、試運転を行いません。）



コネクタを接続していても端末ランプが点灯しない場合

原因：① 通信ラインの接続不良、断線 ② 端末の電源プラグの入れ忘れ

対応：① 「自動試運転スイッチ」を押し、自動試運転を一度止めた後、信号線などの通信ラインの接続不良、断線を確認して処置し、再度「自動試運転スイッチ」を押します。

② 端末の電源コンセントを入れ、再度「自動試運転スイッチ」を押します。

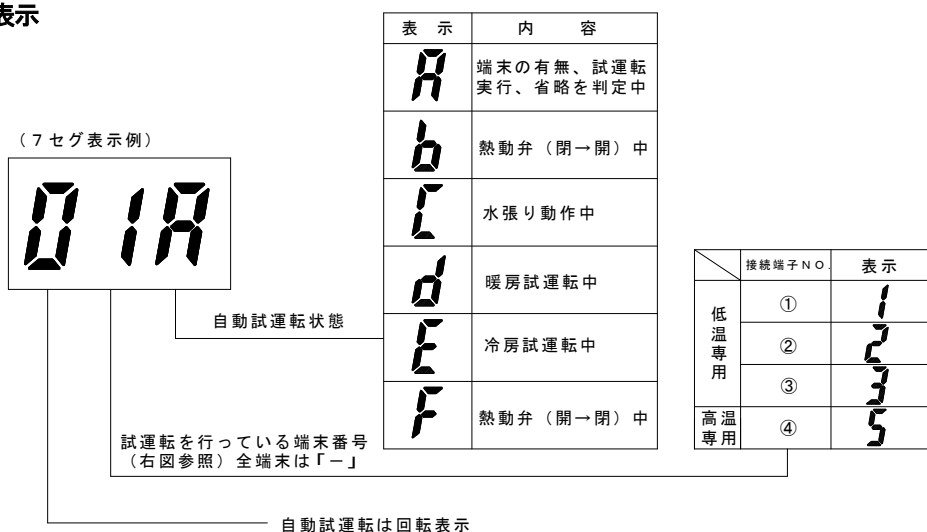
コネクタを接続していても端末ランプが点滅する場合

原因：① 通信ラインのショート ② 床温センサー不良

対応：① 「自動試運転スイッチ」を押し、自動試運転を一度止めた後、信号線などの通信ラインのショートを確認して処置し、再度「自動試運転スイッチ」を押す。

② 「自動試運転スイッチ」を押し、自動試運転を一度止めた後、床温センサーの接続不良、断線を確認して処置する。

自動試運転中の表示

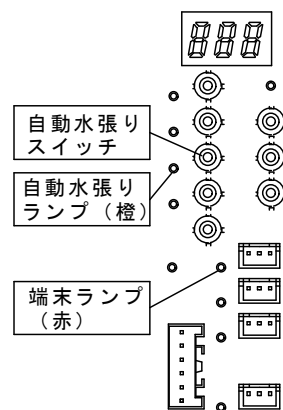


■自動水張り（インテリジェント通信により、水張りのみを行う方法）の作業手順

動作は自動試運転の作業手順 1～8 とほぼ同じですが、各端末の試運転は行いません。

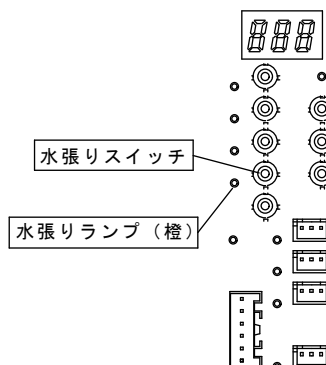
1. 電装基板上の「自動水張りスイッチ」を押します。
2. 自動水張りランプ（橙）が点灯します。この場合、暖房燃焼をさせず、水張りのみ自動で行います。
3. 信号線が接続されている接続端子に対応した端末ランプ（赤）が全て点灯します。
4. その端末の自動水張りが正常に終了すると端末ランプ（赤）が消灯し、次の端末の自動水張りに移ります。
5. 全ての端末ランプが消灯すると、自動水張り終了です。

注）端末の接続端子を抜きかえた時は、一度、機器の電源を切り、再度電源を入れなおしてから「自動水張りスイッチ」を押してください。



■E-con 端末（インテリジェント通信に対応しない端末）を使用する場合の水張りとは試運転の作業手順

1. 電装基板上の「水張りスイッチ」を押します。
2. 水張りランプ（橙）が点灯します。
3. 端末を1系統ずつ運転状態にし、全ての端末の水張りを行ってください。注水、ポンプ運転を自動的に繰り返して回路のエアー抜きを行います。
4. 水張り終了後、「水張りスイッチ」を OFF してから、各端末の試運転を行ってください。



■インテリジェント通信対応端末とE-con 端末を併用する場合の水張りとは試運転の作業手順

- インテリジェント通信対応端末は、前記の自動試運転の作業手順に従ってください。
この自動試運転時は、E-con 端末の運転スイッチを「切」にし系統の回路を閉止してください。
- E-con 端末は、自動試運転とは別に前記の各系統の水張りとは動作確認をしてください。

ふろの試運転

- 必ず浴槽が空の状態、排水栓が確実に閉めてあることを確認してから試運転を行ってください。
残り湯があると、次回からの自動湯はり時の水位が変化するなど正常に動作しません。

ふろ水位（水量）の目安（下図）

■浴槽種類の設定方法

- 全自動タイプは工場出荷時「洋バス」設定になっていますので、洋バス以外の浴槽「**和バス**」にするには設定変更が必要です。
- 自動タイプは工場出荷時「標準浴槽」設定になっていますので、標準浴槽以外の浴槽「**大浴槽**」にするには設定変更が必要です。
- 設定を変更する場合は、必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。電装基板上のディップスイッチのNo. 3 を切り替えることで「和バス」・「標準浴槽」／「洋バス」・「大浴槽」の設定変更ができます。その他のスイッチは変更しません。

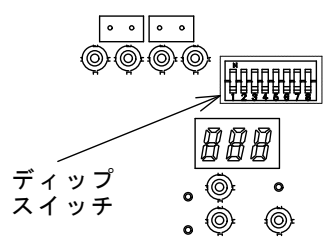


全自動タイプ			自動タイプ		
洋バス設定	和バス設定	番号	標準浴槽設定	大浴槽設定	番号
お湯の高さ(目安)			お湯の量(目安)		
48cm	60cm	1 1	300L	500L	1 1
45cm	57cm	1 0	260L	400L	1 0
42cm	54cm	9	240L	300L	9
40cm	51cm	8	220L	260L	8
38cm	48cm	7	200L	240L	7
36cm	45cm	6	180L	220L	6
34cm	42cm	5	160L	200L	5
32cm	39cm	4	140L	180L	4
30cm	36cm	3	120L	160L	3
28cm	33cm	2	100L	140L	2
26cm	30cm	1	50L	50L	1

※ふろ水位とは、浴槽底からの
お湯の高さです。
□：工場出荷時

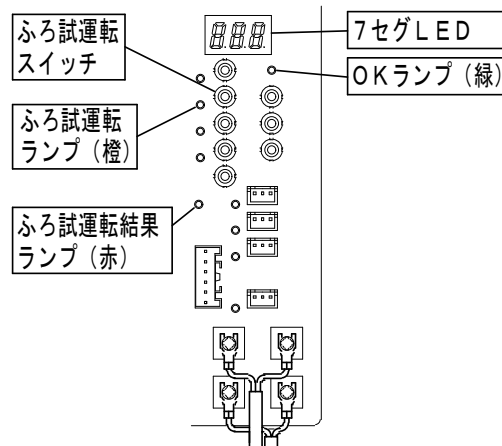
※ふろ水位とは、浴槽に入るお湯の
水量です。
□：工場出荷時

ディップスイッチ NO. 3	全自動タイプ	自動タイプ
ON	洋バス (工場出荷時)	大浴槽
OFF	和バス	標準浴槽 (工場出荷時)



■ふろ自動試運転の作業手順

- 浴室リモコンを切の状態、電装基板上の「ふろ試運転スイッチ」を押します。
- ふろ試運転ランプ（橙）、ふろ試運転結果ランプ（赤）が点灯します。
※ふろ試運転中は、配管などに振動や衝撃を与えないでください。
水位不良の原因となります。
- 設定湯量・湯温に到達し、正常に終了しますとふろ試運転ランプ（橙）ふろ試運転結果ランプ（赤）が消灯し、試運転終了です。
- 自動試運転（暖房側）も完了しますと電装基板上のOKランプ（緑）が点灯します。



- ふろ試運転が正常でない場合、途中で停止し、ふろ試運転ランプ（橙）が消灯し、ふろ試運転結果ランプ（赤）が点滅し、リモコンにエラーコードを表示します。

電装基板上のエラーコード呼び出しスイッチを押すとエラーコード表示部（7セグLED）にエラーコードを表示します。
ふろ試運転結果ランプは約24時間点滅した後消灯します。

注）浴室リモコンで行うこともできます。その場合は浴室リモコンの運転ボタンを「入」にし、「ふろ自動」ボタンを5秒間長押ししてください。

（ご注意）

全自動タイプの製品に体脂肪測定機能付浴室リモコン（高機能タイプ）をご使用の場合、ふろ試運転に時間が掛かります。これは浴槽の形状を正確に確認しているためで故障ではありません。
また、ふろ試運転時のふろ水位は浴室リモコンの設定水位と異なり、終了したときの水位がふろ自動運転時の水位より高くなりますので、浴槽からあふれないように次項の表を参考にして設定してください。

12. 試運転	機種：共通
---------	-------

体脂肪率測定機能付浴室リモコン（高機能タイプ）ご使用時のふろ試運転時のふろ水位
（循環アダプターが浴槽の底面から 15 cm に設置されている場合）

浴室リモコン設定水位	3	4	5	6	7	8	9	10	11
ふろ試運転時の水位 (cm)	40	40	40	42	44	46	48	50	52
（参考）ふろ運転時の水位 (cm)	30	32	34	36	38	40	42	45	48

（工場出荷時は網掛けで示した6に設定してあります）

※標準タイプのリモコンをご使用の場合、ふろ試運転時のふろ水位は、ふろ運転時の水位と同じになります。

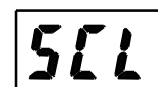
■自動試運転時のランプの表示（○点灯、×消灯、△点滅）

ランプの種類	運転状態とランプについて
OKランプ（緑）	自動試運転・ふろ試運転終了時、全て正常完了であれば点灯（○） 1つでも未終了のものがあれば消灯（×）
自動試運転ランプ（橙）	自動試運転運転時は点灯（○）、終了後消灯（×） （全ての端末が未接続の場合でもすぐには消灯せず、通信を1回行ってから消灯（×））
試運転結果表示ランプ 低温端末 ①～③（赤） 高温端末 ④（赤）	試運転スイッチが押されると接続されている端末全てが点灯（○） 試運転正常終了時は消灯（×） 異常の場合は点滅（△） 試運転終了後24時間経過後消灯（×） 試運転確認スイッチを押されたとき 正常終了している端末は点灯（○）、未接続、未完了、異常の端末は消灯（×）
ふろ試運転ランプ（橙）	ふろ試運転スイッチを押すと点灯（○）、終了すれば消灯（×）
ふろ試運転結果表示 ランプ（赤）	ふろ試運転スイッチを押すと点灯（○）、正常終了すれば消灯（×） 異常であれば運転OFF（異常解除）または24時間たつまでは点滅（△） 試運転結果表示のときは、正常終了していれば点灯（○）、未終了または異常であれば点滅（△）
自動水張りランプ（橙）	自動水張りスイッチを押すと点灯（○）、終了すると消灯（×）
水張りランプ（橙）	水張りスイッチを押すと点灯（○）、終了すると消灯（×）

自動試運転のクリア方法

- 全ての端末を最初からやり直す場合に以下の方法で試運転の結果をクリアすることができます。

- 電装基板上の試運転結果スイッチとエラーリセットスイッチを同時に3秒間長押しします。
- 7セグLEDに「SCL」と表示されると試運転結果がクリアされます。



7セグLEDの表示

■暖房配管のエア抜き運転タイマー設定方法



- 設定を変更する場合は、必ず電源コードを抜いてから作業を行ってください。工場出荷時には、「エア抜き動作なし」の設定となっています。
- 電装基板上のディップスイッチ No.1 No.2の組み合わせで暖房配管のエア抜き運転時間を切り替えることができます。
その他のスイッチは変更しません。
- 3階に温水マットを設置する場合は「360時間に1回」エア抜き運転を行うようにディップスイッチを設定してください。

エア抜き運転		ディップスイッチ
エア抜き動作なし （工場出荷時）	1…ON 2…OFF	
720 時間に 1 回	1…OFF 2…OFF	
360 時間に 1 回	1…OFF 2…ON	
72 時間に 1 回	1…ON 2…ON	

12. 試運転	機種：共通
---------	-------

エラーコードについて

■自動試運転時の端末機器側のエラー表示について

1. 床暖房リモコン

エラー番号	エラー内容	発生原因
324	床温異常	・試運転用床温センサーの故障（オープン、ショート） ・試運転用床温センサーの取り付けなし
034	誤配管判定	・試運転OFFモード時に床温が3℃（または5℃）上昇する
970	試運転50分経過	・試運転ONから49分以内に試運転OK確定しない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う

2. エアコン

エラー番号	エラー内容	発生原因
970	暖房試運転エラー	・試運転ONから10分以内に試運転OK確定しない ・熱交換器の温度が冷風防止解除温度に達しない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う
980	冷房試運転エラー	・試運転ONから10分以内に試運転OK確定しない ・室温と熱交換器の温度差が5℃以上ない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う

3. 浴室暖房乾燥機

エラー番号	エラー内容	発生原因
970	試運転エラー	・試運転ONから10分以内に試運転OK確定しない ・吸い込み温度が7℃上昇しない ・誤配管等がないか確認し、再度試運転を行う

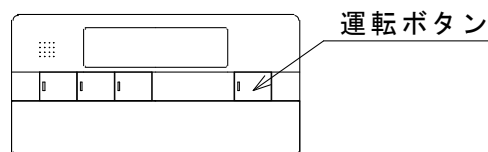
■ふろ試運転時のエラー表示について

エラー番号	エラー内容	対処方法
002	ガス供給なし 浴槽残り湯あり	・ガス栓が開いているか確認する ・浴槽に残り湯がないか確認する
032	注湯時間異常	・浴槽の栓が抜けていないか確認する
111	給湯点火不良	・ガス栓が開いているか、配管内に空気がたまっていないか確認する
252	基準水位不検出 設定水位不検出	・浴槽の栓が抜けていないか確認する

・上記以外の熱源機のエラー及び詳細についてはフロントカバー裏面にある故障診断シートにてご確認ください。

給湯の試運転

- リモコンの運転ボタンを「入」にしてください。（運転ランプ・液晶が点灯します）
- 給湯栓を開き、リモコンの給湯燃焼表示が点灯し、お湯が出ることを確認してください。
（最初は、ガス配管の空気が抜けるまで給湯栓の開・閉操作を繰り返してください）
- リモコンの給湯温度設定を操作して、湯温が変わることを確認してください。
確認後はリモコンの給湯温度を40℃に設定しておいてください。



13. 試運転後の水抜き

！ 注意

- ・試運転後、お客様が使用されるまでに冬期をはさむ場合は、凍結して機器が破損する恐れがありますので、機器内の水抜きを行ってください。
(不凍液を使用した場合は暖房配管の水抜きは必要ありません。)
- ・特に集合住宅のPS設置などの水抜きを行う場合は、床面やPS内部に水をこぼさないよう、容器などで排水を受けてください。

現場を離れる前に

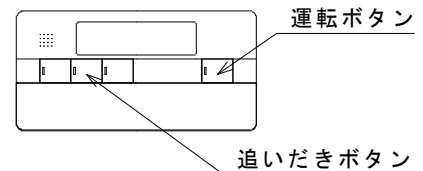
- ・試運転終了後、長期間使用しないときは、機器本体及び周囲の点検と機器内の水抜きを行ってください。
- 1. 水フィルターを取り出し、フィルターを清掃してください。
- 2. 機器の周辺に可燃物がないかも一度確認してください。

試運転後の水抜きについて

浴室リモコンで行う方法と機器本体で行う方法があります。

■浴室リモコンで行う水抜きの作業手順

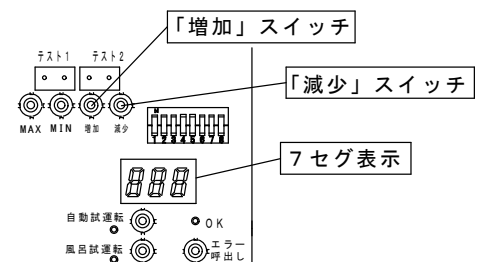
1. ガス栓を閉めます。
2. 給水元栓を閉めます。
3. 浴槽の水を全て排水します。
4. 浴室リモコンの運転ボタンを「入」にします。追いだきボタンを5秒間押し続けます。受付音「ピッピッ」が鳴り追いだきランプが点滅します。
5. 約2分間そのままお待ちください。
6. 全ての給湯栓を全開にします。



■機器本体で行う水抜き作業手順 (浴室リモコンが接続されていない場合は操作できません)

機器本体の電源コードを抜き、2～3秒後に再度電源コードを入れます。

1. ガス栓を閉めます。
2. 給水元栓を閉めます。
3. 浴槽の水を全て排水します。
4. 約1分間待ち、機器本体の電装基板の「増加」「減少」スイッチを長押しします。
受け付けられると、7セグ表示の左7セグLEDが回転表示します。
5. 約2分間そのままお待ちください。
6. 全ての給湯栓を全開にします。



(電装基板)

＜給湯側及びふろ側の水抜き＞

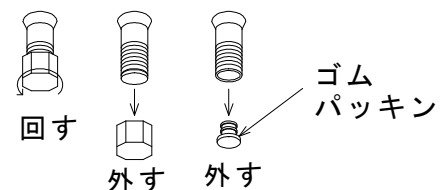
7. 水抜き栓 (1)、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)、(7) を外します。

＜暖房側の水抜き＞

8. 不凍液注入の確認
不凍液が入っていない場合…水抜き栓 (8)、(9)、(10)、(11) を開ける。
不凍液が入っている場合…10. へ進む。
9. 全ての水抜き栓から排水されたことを確認し、水抜き栓を閉める。
10. 最後に電源プラグを抜く。または分電盤で機器の電源をOFFにする。

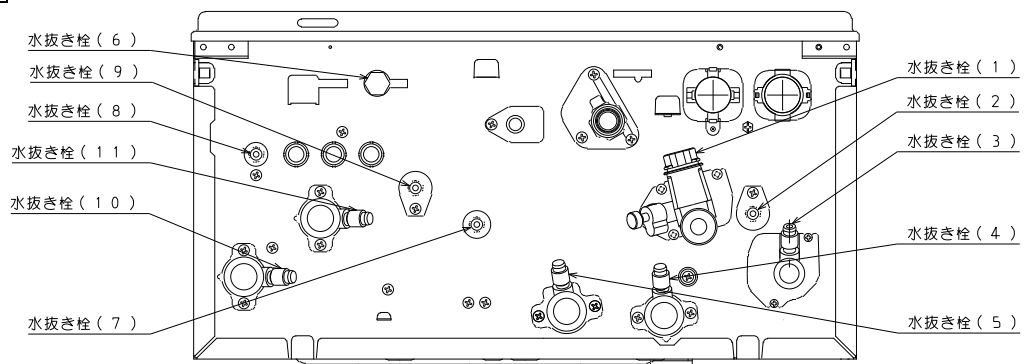
(注意)

浴槽の水を排水後は、浴槽へ水を流し込まないでください。
暖房側の水抜きを行うときは、必要に応じて端末の水抜きを行ってください。



水抜き栓 (6) の外し方

水抜き栓の位置



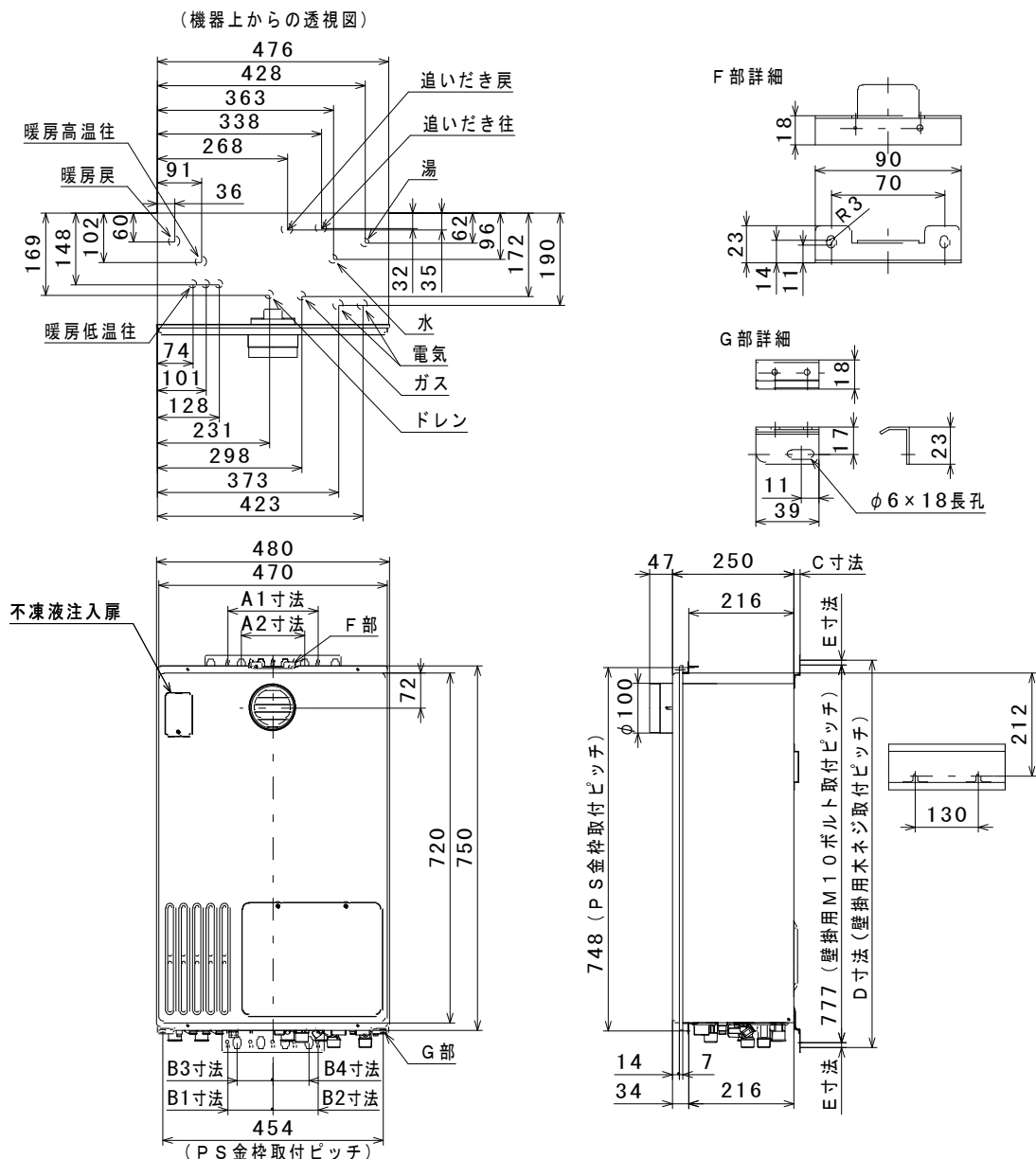
14. お客様への説明

- ・取扱説明書に従って使用方法を説明してください。特に「必ずお守りください」「使用方法」についてよく説明してください。
- ・保証書に必要事項を記入の上、お客様に渡して、取扱説明書に従って「アフターサービス」について説明してください。

15. 外形寸法図

(単位：mm)

1. XT4214ARSAW3C/XT4214ARSSW3C

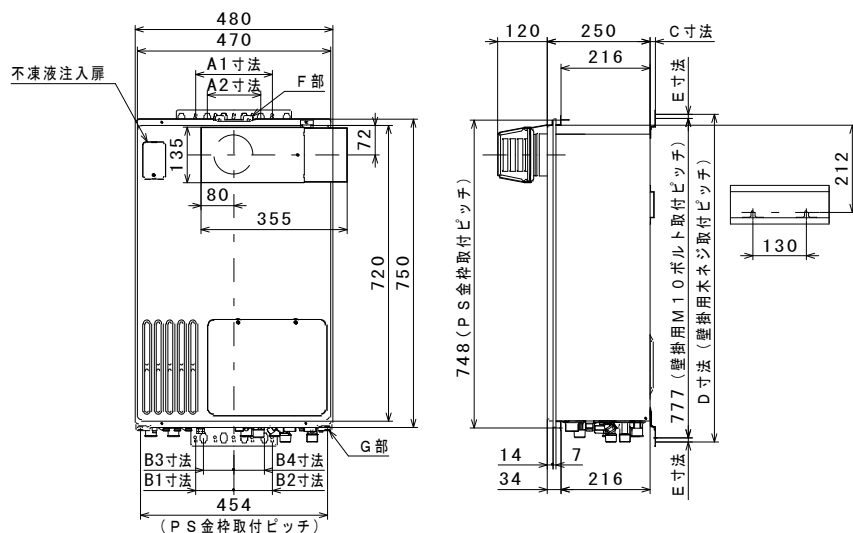


■各配管口径と底板よりの継手高さ(mm)

	配管口径	継手高さ
ガス	20A (R3/4)	40
水	20A (R3/4)	51
湯	20A (R3/4)	51
追いだし往・戻	CCHMジョイント	38
暖房低温往	CHMジョイント	24
暖房高温往	CCHMジョイント	38
暖房戻	CCHMジョイント	38
ドレン	15A	25
電気	C31	25

	A1寸法	A2寸法	B1寸法	B2寸法	B3寸法	B4寸法	C寸法	D寸法	E寸法
通常時	186	—	93	93	—	—	13	797	10
絶縁部品使用時	—	130	—	—	74	74	17	791	7

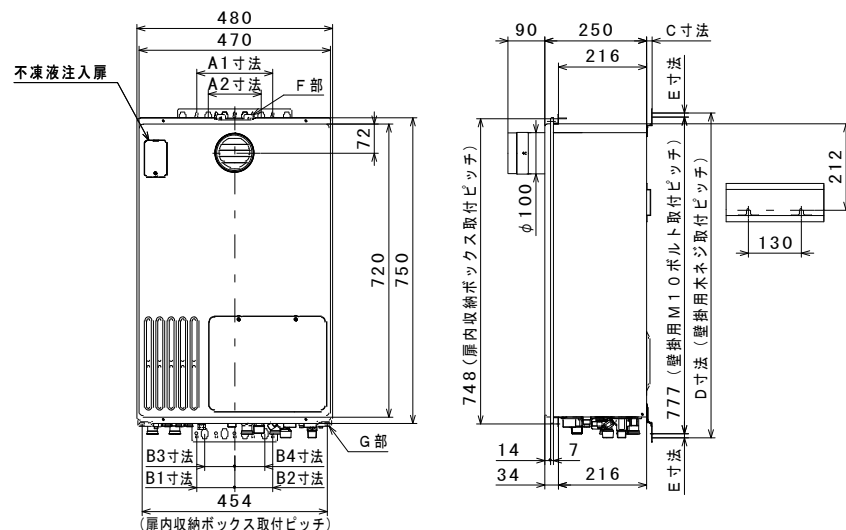
2. XT4214ARS2AW3C/XT4214ARS2SW3C



(単位: mm)

配管位置・接続口径 他は
XT4214ARSAW3C/XT4214ARSSW3C 参照

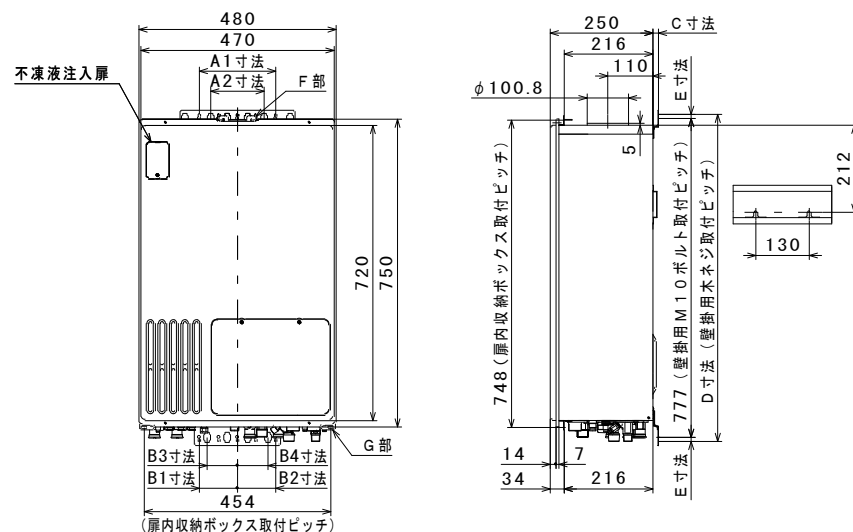
3. XT4214ARS4AW3C/XT4214ARS4SW3C



(单位: mm)

配管位置・接続口径 他は
XT4214ARSAW3C/XT4214ARSSW3C 参照

4. XT4214ARS9AW3C/XT4214ARS9SW3C



(単位: mm)

配管位置・接続口径 他は
XT4214ARSAW3C/XT4214ARSSW3C 参照

販売者・製造者

販売者：東京ガス株式会社
〒105-8527 東京都港区海岸1丁目5番20号
製造者：パーパス株式会社
〒417-8505 静岡県富士市西柏原新田201